愛國婦人

定價一部金參錢五厘　一ヶ月金七錢　半年分四拾貳錢　全國無郵送料
廣告料一行六拾錢
本誌全部無轉載

毎月二回　五日廿日發行
發行所　東京麴町區(平ヶ淵公園)　愛國婦人發行所
印刷兼發行人　山澤俊夫
編輯人　永持德一

社説

內助

男子の有する婦人觀は、多くはその妻の如何に由りて極まるものなり。「女子と小人は養ひ難し」と言へる本人は、恐らく、その妻が仕方のなき人間にて、懲り〳〵せるより、覺えず出てたる嘆息の聲なるべし、西洋の諺に「自己の妻のために、すべて他の婦人を尊重する能はざる男子は、不幸の人なり」とあり、男子も不幸なれど一般の婦人こそは迷惑千萬なれ。これに反して、婦人といへば皆善良にて、恰も天使の如く思へる男子は、乾度良き妻を有ち居りて、日頃のその行が、如何にも立派なるより、延いて一般の婦人もまた此の如しと思へるなるべし。有ちたきものは、良妻なるかな。

婦人は多くは內に在りて働くが故に、その手柄顯はれざれども、男子の事業の半分は、確かに婦人內助の功に由るといふも、過言にあらざるべし。然るに實際は、妻といふ妻が悉く然るにはあらずして、中には隨分困り者あることそ殘念なれ。西洋のポンチ繪に、獅子使ひが、妻に追ひかけられて、獅子の檻中に逃げ入れるを、妻が外より「この卑怯者が」と怒鳴り居る所を畫けるものあり。飛んでもなき家內もあるものかな。中々內助を望むどころにあらず、如何にして家內の氣に入らんかと、獅子を使ふは、苦にならねど、これが毎日の苦になりて、命もために縮まるべし、「妻を取るは、主人を取るなり」「喧嘩は、妻の持參物なり」などいへる語は、斯る男子が、溜息と共に唸り出したるものなるべし。中には、夫は前垂れの如く心得居る妻ありて、夫は外にも出でず、年中妻に責め使はるゝなり。「妻をもつは、此世からなる地獄の始まり」とは、斯る夫の身の上なるべし。或は「無妻に次ぎて、最も好きものは、良妻なり」などいへるは、何が遺恨かしらねども、よく〳〵婦人に手懲ある者の言なるべし。鬼に角妻は何うでも可きものにあらず。惡しき妻をもてるは、夫の生涯の不作にして、これほどの不幸あるべからず。惡しき妻は、夫の內助たることは、さておき、折角夫の仕掛けたる仕事の芽を、片つ端より壞して行くものなり。我等は、婦人中一人にても、斯る惡妻たるものなきを望むと雖も、もしありとすれば、誠に嘆息の次第なり。「余は、結婚の着物が好く新婦に似合ふが如く、余に好く似合ふ婦人を妻とせんと欲す」と英國の詩人ゴールドスミッスは言ひたり。嫁して惡妻となるが如き婦人は、惡しき男の外、似合ふ者なしと知るべし。「妻を貰ふは、富籤を抽くが如し」といふ語あり、富籤ならば、抽き損ねたりとも、高の知れたるものなれども、惡しき婦人を妻とせるほどの貧乏籤はなく、何が不運なりとも、一生これほどの不運あるべからず。

これに反して、善き婦人を妻とせるほどの、好運はなく、生涯の豐年はなきものなり。「幸福の世界は妻の一語にあり」と或人は曰ひたるが、これが本當にて、妻はみなしかあるべき筈のものなり。良妻の主宰せる家庭は、この世に於ける唯一の樂地なり。平和なる一小天地にして、世に吹きすさぶ嵐は、絕えてこゝを掠むることなく、疑惧、瞋恚、不平、暗鬪、その他あらゆる世の罪過は、長へにその門を訪づることなし。男子が社會に奮鬪して負へる精神の瘡痍も、一たび家庭に歸れば、妻の溫き手にて、跡なく治せられ、更に出てゝ戰ふの勇氣と力とを與へらる。さればフランスの諺にも「良き妻を有する者は、如何なる災禍にも堪ふるを得べし」とあり。英國の文豪ラスキン曰く、「諸君は、妻の支配する所は、たゞその夫の家のみ、その心は支配するものにあらずと、人の言ふを屢々耳にせられたるべく、又諸君も恐らく、かく思はるゝならん。されども、こは大なる誤りにして理想は全くその反對なり。眞の妻は、夫の家にては、その支配を受くるものなり、されど夫の心の中にこそ、妻は女王として、これを支配するものなれ。すべて夫の有する暗黑面は、妻たるものこれを洗濯して、清淨ならしむべく、すべてその過失は、これを改めて、眞善なるものとせざるべからず、世界の喧鬧の中にありて、夫の求むべき最上の賞賛は、妻の與ふるものたるべく、世界の戰爭場裡にありて、夫の憩ふべき眞の平和の場所は、妻の作れるものたらざるべからず」と。

ラスキンのこの文を讀みて、飜て我國夫妻の關係を見れば、讀者は果して、如何に感ぜらるゝか。男子はたゞ生ける臺所道具として、妻を貰ひ、女子も、またたゞ臺所の整理者たるの資格と覺悟とにて嫁するものはなきか、夫妻の理想とし、相互の期待する所の低き、何ぞ此の如くなるや。妻の眞の資格は、その手と足とにあらずして、その精神にあるなり。「妻を辱しむるものは、自ら辱しむるものなり。」我等は世間自ら辱しめつゝある男子の多きを憾むと共に、また自ら辱しめつゝある女子なきやを憂ふるものなり。スペインの諺に「夫の性質を知らんと欲せば、その妻の顏を見よ」とあり。妻たるもの、怒り顏、剛情顏、泣き顏、笑ひ顏が、すぐに夫の性質にさし響くものと思へば、妻の顏も大切なるかな。されど顏は此頃專ら流行の紅、白粉、洗ひ粉にてうつくしくなると思ふは間違にて、心から正しくせざれば、利目なきものなれば、妻の化粧よりも、心の化粧を第一とすべく、自らの化粧成りて、能く夫の心を化粧するが、內助の極意なりと知るべし。

愛國講演

夫婦の關係

前號にお約束致して置いた夫婦の情合——夫婦間の人情と云ふものに就き餘白の許す限、申述べやうと思ふ。日本と西洋とては、一概に夫婦と申した處で、家庭に於ける位置が鳥渡異つて居る。と申すのは何う云ふことかと云ふに、我國に於いては

親子の關係

と云ふものが最も重きを爲して居る。されば親、而して子、從つて父親、母親、子息、子息の嫁と云ふ風に上から下への關係を爲して居る。これが在來の日本の習慣である。であるから、祖先を重んずると云ふことも、これから割り出されて來て居る。之れに反して、西洋に於て

家庭に重きを爲す

は第一に夫婦である。從つて親夫婦、子夫婦——これが兩々相對して同樣の重きを爲して居る。されば、日本の上から下と云ふ關係とは違ひ、橫の關係を爲して居る。

即ち我國のは縱の關係、西洋のは橫の關係を爲して居る。この關係を好う呑み込まいては、この思想の激變甚だしき——一方に於ては急進的ハイカラ思想が跋扈し、他方に於ては飽くまで保守的思想が堅城鐵壁と固めを爲して居る、二十世紀の思想界に於ける潮流が呑み込めぬのみか、この至つて平凡な夫婦の關係と云ふものも、或る方には仲々呑み込めぬことゝ思ふ。

おやに依つて、序説として鳥渡、斯う云ふことを本號の餘白に認めました。以下本文は追々に！

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

家庭の和樂

原篠川

記者足下、私も家庭の一員であるから、家庭の和樂と云ふ事に付て述べて見たいと思ひます。

此に家庭の人と云ふのは、自意識のある者の事で、小兒なぞは暫く與らせぬ事とし、和樂と云ふ辭も、意味が少し判然しないて、唯の平和であると云ふのか、乃至悅樂であると云ふのか、消極か積極か不明であるが、今此には第一義に取ッて平和と云ふ意味に解したい。不和のない悅樂のあらう道理はないから、家庭の悅樂を說く前に、まづ家庭の平和を研究するのは、凡そ物の順序と云ッてよからう。て此論の意義を、何うしたら自意識のある家人の團體を、平和に暮させる事が出來るかと云ふ問題に限定する。

扨此樣な家庭の和樂は別に六ヶしい事はない。家人相互の意思の疎通を計れば足りると思ふ。然し此說の奥には、一種の假說が橫はッてゐるから、讀者は我說の眞僞を計る前に、先づ假說の當否を辯じて貰ひたい、假說と云ふのは家人は凡て、家庭の和樂を望んでゐると云ふ事で、平地に波瀾を起さうと思はないと云ふ事で、橫紙を破らうとしたり、橫車を推さうとする樣な人は、家人の常態ではないと云ふ事である。此假說を信じない人は、前述の所說を疑ッてもいゝ。國家には議會があッて、官民上下の意思を疎通してゐる。家庭も小い國家である。國民の意思が疎通しないと、惡い事ではあるが爆烈彈なぞが飛ぶ。家人の意思が疎通しないと、面白くはないが風波が起る。然らば家庭の議會は何處にある。個人と個人との關係である丈に、之を第三者に求める事は六ヶしい。兄弟の喧嘩は親に持ッて行けば宜からうが、親子の喧嘩は何處へ持ッて行く。夫婦の喧嘩は何處へ持ッて行く。更に主從の喧嘩は何處へ持ッて行く。抑も已に喧嘩が起るのは本論に說く平和の本旨でない。幸に意思が疎通してをれば、決して相互の喧嘩は起らぬが、此疎通の方法には二つある。(一)は毫も成心を挾まず、他人の眞意を掬んでやるので(二)は向上精進するのである。

茲に胃弱の姑があッて、嫁も能く之を知ッてをり、其命令に依ッて、常に軟い御飯を焚いてゐたが、或日何時になく硬い御飯が出來たとする。姑が之を見て憤怒の形相すさまじく、嫁の胸倉を捕へん斗りに、汝は何て、我命令に背いた。我命令を忘れたのか、忘れるとは我身を粗末に思ふからだ。妾の胃弱を知らぬでもなからう。知ッて此う云ふ御飯を焚くとは、之は困らせやうとの態度であらう。態とでなければ、御飯を食はせ度ないのか、妾に早く死ねと云ふのか、なぞ疊みかけて攻めたら何うであらう。之は成心を挾まぬと云はれやうか、嫁の眞意を掬んだと云はれやうか、大成心を挾んで、大邪推を逞うしてゐるのだ。一端の過失に腹立しく思ふのは人情である。別して胃弱とあれば嫌に感ずるであらう。而も強ひて之を咎め立てゝ、惡罵熱罵を恣にするとは何事だ。一年三百六十五日、炭のをこらぬ時も、薪の燃えぬ時も、氣分の惡い時も、外に要のある時も、知りつゝそうされぬ時もあらう。心明鏡止水の如く、禪定の悟りを開かぬまでも、嫁に惡意があッてした事でないのは確だ。よし何等の外部の障害はなかッたにした所で、若い者のまだ下手なが爲めに、此んな過失に陷る事もあらう。そんな場合には飯位が焚けぬかと怒らんでも、此は恁うして焚くものと、善く焚いて見たら、笑はれまい、の、相手の眞意を掬みとッてやるがよい。之を再びせぬ道を開いてやるがよい。之は只一例であるが、假令善い事でも取り樣によッては惡く見える。疑心暗鬼と云ふてはないか。併し相手は善意でやッてゐる。善意とまでは行かなくッても惡意ではない。家庭の平和を助長しやうとまでは思はなくッても、家庭の和樂を傷けやうとはしてをらぬ。もしそれに添はぬ行動があッたら、之を過失と見てやッてよからう。何も角芽立つ譯はない。從ッて喧嘩する事はない。

當代百畫選(九) △菖蒲矢 田代古崖氏筆

併し年齡や境遇や見識の相違から、何うしても相手の眞意が解せられぬ場合がある。若し茲に田舍から老人が出て來て、東京の女學生等を見たら何と云ふだらう。男女七歲にして席を同じうせず、滅多に男なぞとは口を利かぬを女と思ッてゐた者が、肩々相摩する電車の中や、衆人稠座の間に立ッて、六尺の男兒を物とも思はず、嬌舌爽かに應酬するのを見ては、驚魂愕魄しないであらうか。玉歩ゆるやかに御引ずりをし、高い聲でも物を云はぬが女と思ッてゐたのに、或は鞦韆の輕業乘や、或は音樂會での獨吟なぞを聞かせられては、恐らく世の澆季を嘆ぜずにはゐまい。東京の若い者にとッては何でもない事が、田舍の老人に取ッては不可思議なのである。之は不可思議がられる方が非であるか、不思議がる方が否であるか、暫時議論は別として、兎に角時代の推移であるから、それを解するには時代の思潮に接せねばならぬ。ポット出の田舍老人に取ッては、決して理解せられる事ではないが、自分に理解せられぬからと云ッて、直に他人を惡樣に云ふのは、之は公平な行き方でない。東京娘が批評したければ、少くも自分も東京にゐて、彼等の風俗を看察した上でなければならぬ。只自分の知ッてをるのが田舍の事、乃至五六十年前の江戸の事なら、自分は田舍者を以てをり、半世紀以前の歷史中の人物を以て甘んじ、大に引込んでゐなければならぬ。之は唯一例であるが、現世には活社界から隱居したと云ひ乍ら、在活社界の一員である、嫁や婿に對して丈は、中々隱居しない人が多い、元來隱居なぞは善くない事であるから、僅一二の人に對しても隱居しないのは、或は善い事であらうけれど、之を若い者の方から云へば、同じく自分等の意思の解るやうに、精進猛省して貰はねば、老若二元の說が家內に剋して、遂に平和は得られないのである。元來人に鬼はない。况んや家人に於てをや、公平に見て相手の善意を了解し、向上して能く意思の疎通が計られたなら、何處に不平の起る所があらう、不平はあッても不和になる所以はない。忍而和齊家上策と云ふが、忍ぶと云ふ苦痛はなくッても、齊家の策は以上の說で立てられると思ふ。記者足下、以上が私の家庭の和樂論であります。

閨秀百佳選

前號に引き續き應募された方々の芳名を次に御披露致します。尙ほ殘れる分は次號に御披露致しますから、左樣御承知下さいませ。

三重縣阿藝郡一身田村	末　とよ子
名古屋市西區下長者町三丁目	青木　穰子
大阪市西區北堀江通五丁目	十合貴美子
三重縣北牟婁郡尾鷲町	中橋多麻子
北海道函館區室町	安藤善美子
遠江國濱松町	萩原さだよ
岡山縣苫田郡鄕村阿本	西村　清子
東京市麹町區元園町	戸塚　淺子
岡山縣苫田郡鄕村	西村　長子
岡縣山苫田郡西苫田村	八木　清子
鹿兒島縣姶良郡加治木村	稻垣まさ子
東京市四谷區南伊賀町	川村　孝子
廣島縣深安郡神邊	金原なつ子
大阪市北區伊勢町	打越和喜子
岡山縣條郡福海村	横川　明子
兵庫縣津名郡安平村	古舘ひさ子
大分縣直入郡久住村字青柳	榿木　文子
京都三條大橋東入法林寺門前	加藤千代子
大阪府堺市大町西三丁	金田つる子

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

女德論叢　は既に發賣致しました定價は二十六錢郵稅四錢不思議な懸賞を添ふ

家庭簡易 西洋料理法

私立英語專門櫻井女塾長　櫻井ちか子

ICE-CREAM.

1. pint milk,
1/2. cup sugar,
2. eggs,
1. tablespoonful flour,
1/2. salt-spoonful salt,
1. tablespoonful flavoring,
1/2. tablespoonful butter.

Boil the milk and cream. Mix the suger, flour, and salt thoroughly. Beat the eggs till light, add the cold milk and the sugar mixture, and when well mixed add the boiling milk and butter. Turn back into the double boiler and cook twenty minutes. Stir constantly till smooth. Strain through a gravy strainer, add more sugar if needed, and when cold add the flavoring. Freeze as usual.

アイスクリーム

△材料　牛乳三合▲砂糖半杯（一合入茶碗）▲玉子二個▲うどん粉大匙一杯▲鹽一つまみ▲バタ大匙半杯▲レモン油大匙一杯

△製法　先づ牛乳二合五勺を煮立て置き、砂糖、粉、鹽をよく交ぜ、次に玉子を泡立て、前に殘し置きたる五勺の冷き乳を加へ、其中に又前記の砂糖、粉、鹽を加へよく混ぜたる後に前記の熱き乳とバタを加へ、鍋に入れ湯煎にて二十分間程煮るのです。其煮る間、滑になる樣絶えず攪き廻すのです。煮えたる後スヰノーにて漉し（若し甘味を強くし度い時は此時又砂糖を少し加へるのです）。冷えたる後にレモン油を加へ、アイスクリーム器械に入れて氷らせるのです。

▲注意　以上の分量にて六人前は出來ます器械に氷を入れる時は氷を強き布袋に入れるか、又は布片に包みて細かに碎き鹽一と氷四との割合に混ぜて入れるのです。

アイスクリームの製法は種々ありますが爰には其内容最も簡單なる方法を掲げました。

話の種　ひつじ

(八) 室町、室町、手袋前―

電車内や電柱への廣告は珍らしくもないが、面白いのは市内の電車通りに沿うた停留場近くの大商店で、時々車掌に心づけをして、停留場の名稱と一緒に、自家の家號を呼ばせる事だ。一例をあげれば大丸呉服店前で電車が停るとする。車掌は「通旅籠町」につゞけて「大丸呉服店前―」と怒鳴るといふ工合で、是れが廣告のきゝめは大したものださうな。

さる程に新らたに車掌を拜命した新米の一本筋があつた。ある時思ひがけなく三越から此の筆法で白手袋を一揃寄贈の榮に預つた。何しろ生れてはじめての事だから、先生うれしくてたまらない。よし一つ三越の前についたら、持前の大音聲で「三越呉服店前―」をやつてのけ、知遇の殊恩に酬ゐずんばあるべからずと實は大門を出る時から、心の中で用意おさ〳〵怠りなかつたが、愈々車が室町の停留場にとまると、車掌先生氣がとぎまぎ、南無手袋大明神、此の大役無事に勤めさせ給へやと、七度祈念を凝したかどうか、そこまでは穿鑿が行き屆かぬが、あまり手袋々々と思ひつめて居たもので思はず口をすべらして、

『室町、室町、手袋前―』

(九) 今度は澁柿を食べやうや

記者がまだ少さい頃、同藩に山高先生といふ人があつた。

藩は德川家の御直參であつたが故あつて浪人し、少しの知邊をたよりに我が藩に召抱へられたのは二十四五の時であつた。脊丈の人並勝れて高い、色の淺黑い鼻先のまがつた――その癖邪氣のない顏立であつたが、性來の變人で、奇行も隨つて多かつた。

ある時、何かの寄合で藩の家老籾山五郎兵衛方に十五六人集つた事がある。その時籾山方ではお茶請が何もないといふので、樹から取りたての柿を大盆に山盛りに出した。て、集つた人々は誠に結構で御座いますとか何とか言ひながら丁寧に皮をむいてはムシヤリ〳〵喰べて居たがどうしたものか、山高先生のみは手も出さないので、主人は笑ひながら、いつも健啖を誇られる山高氏が、今日はまた滅多におとなしいでは御座らぬか。と言ふと、え、今日はちとお腹が強いものですから――併し一つ頂きませうかな。と言ふより早く一つを取つて、皮もむかずに一口嚙つたが、澁い！と顏をしかめて其儘側に置き、更に別の一箇を取りあげたが、是れも澁い！といひながらまた別のを取る。かくする事七度、八箇目の柿を取りあげて、是れや澁くないといひながらがり〳〵喰べはじめた頃には盆上の柿は殘り少なになつて居た。我々のは何ともないのに、山高氏のばかり澁いといふのは可笑しいと年長の福山といふ友達が笑つたが、山高先生はニヤリと笑つたばかりで相變らずがり〳〵やつて居る。やがて愈々盆上一箇の柿をもとめざるに至つて、さつき一トロつけては澁い！と取り除けて置いた七箇の柿をとりあげて、

『今度は澁いのを喰べやうかな―』

(十) 枝豆の食競

また或時こんな事もあつた。六人ばかり連合して枝豆會を催うした事がある。やがて茹でたての枝豆が、盆の上に小山のやうに盛りあげられて一同の前に持ち出される。いづれも血氣盛んな連中だからお互に遠慮がない。まるで餓えたる虎の食を爭ふが如き勢ひで、六本の手は間斷なしに上下されるのであつたが、中にも山高先生の手が目立つて早い。殆んど人の二倍の速力である。見ると先生は自分の喰べた殼だけで別に一畫を劃し、一心不亂に山を築いて居る。愈々盆上の豆が盡きた頃には、山高先生の分は優に二人前の嵩があつた。

此時先生ぢろりと一同を見わたして、冷笑一番、今度は豆の殼をしやぶり始めた。と見て、中の一人が、山高氏はまだ食足らぬと見え、今度は殼を嚙つて居るぜと、笑ひながら、その豆殼を取りあげて見ると、是れはしたり、どれも是れも半分づゝ殘つて居たので一同は口あんぐり。先生は相變らずにやり〳〵笑ひながら

『豆はおいしいね―』

今年の曆

六月（小）
June.

日	S	..	7	14	21	28	..
月	M	1	8	15	22	29	..
火	T	2	9	16	23	30	..
水	W	3	10	17	24	..	..
木	T	4	11	18	25	..	..
金	F	5	12	19	26	..	..
土	S	6	13	20	27	..	..

梅料理

▲梅酒　（丹後）春子

生酒一升に氷砂糖又は太白一斤を混ぜ、之に青梅一升をつけ置き、三十日程たちて後之を出し、汁も梅も共に食します。

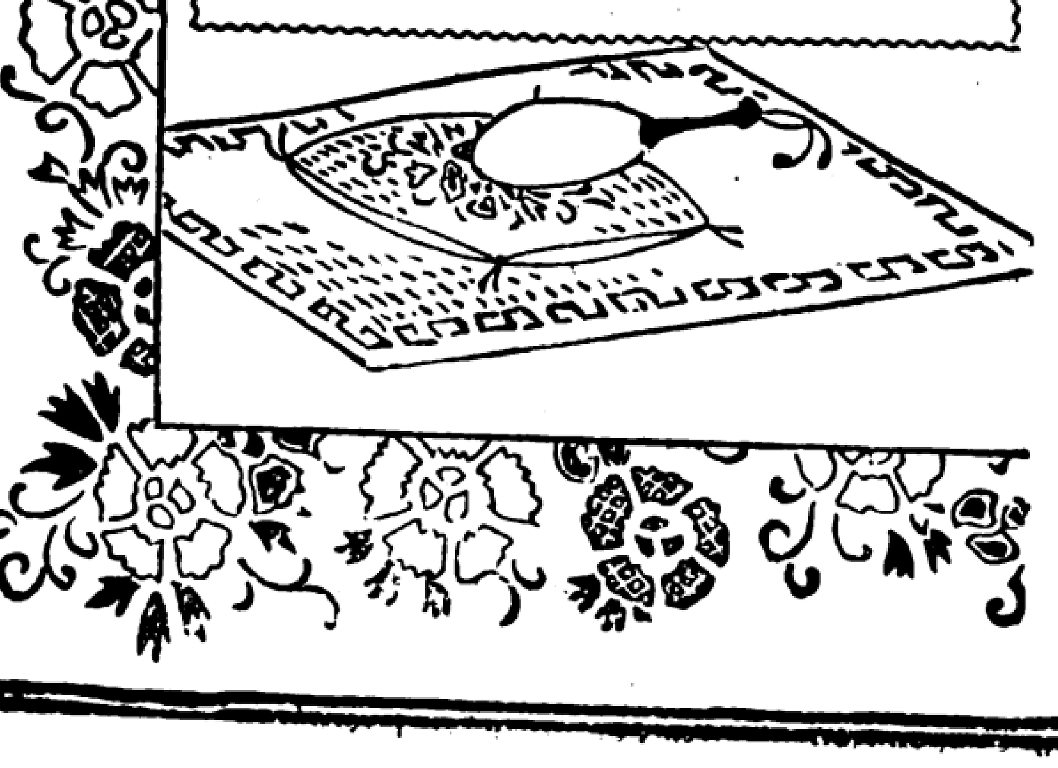
▲梅干　横川明子

梅干を鍋に入れ、水を澤山入れ好く煮出し、斯しては水を入れ、斯くする事二三度、終りに少し水を入れ鰹節の削りしを少なからぬ程入れ、煮立ちし時、砂糖と醬油少しを入れ、好く煮て火より下す。

△骨のある午飯　久野

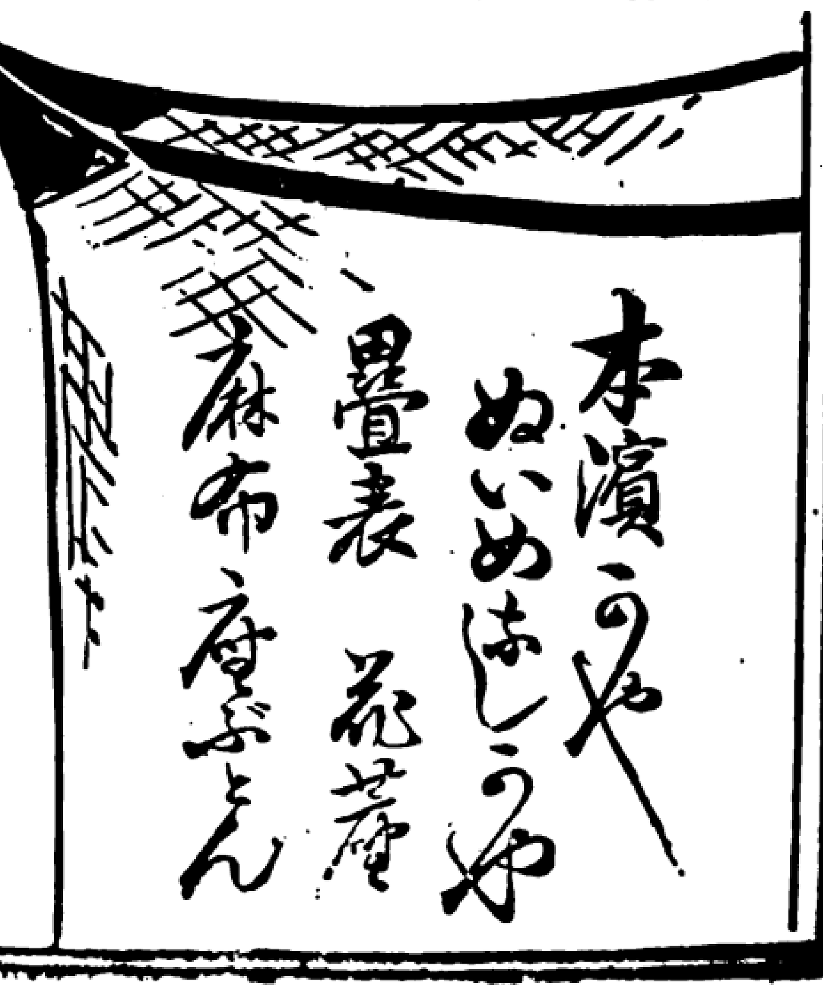
次郎さんがお隣りから御祝ひの赤飯を戴きましたら、あわてゝ手づかみで食べ始めましたので、お母さんが大さう怒りましたら、次郎さんはだつてお母さんが先日お前の樣に我がまゝな者は他人の御飯をたべて見なければ、他人の御飯の中に骨のあるのが解らないからだめだと仰有つたから、今ためして見た處ですと、大さう眞面目に云ひました。

高尚優美ナル營業栞ハ御一報次第送呈可仕候



東京市日本橋區通一丁目
近江屋
西川甚五郎
電話本局 特 三二一一 一三三一
振替口座 四九九二

東京市日本橋區通一丁目
近江屋
西川甚五郎
電話本局 特 九四七 四四八
振替口座 四四九九



Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

家庭百姿

貧

山田くに子

上流人士は夢にも御存知なき、妾が貧の半生。

博愛慈善の心に富ませ給ふ、上流人士のお袖にすがり、慈悲、乞力を仰がんの心にては仝然なけれども、唯だ〳〵世の中には『貧の生涯』と云ふものあり、斯う云ふのが『貧の生涯』なりと、未だ貧と云ふもの御存知なき、上流人士のお目に留めたさに、斯くは記すなり。

何の嬉しうて當初より貧の生涯を送くらるものぞ。

妾とて生れ落つるとゝ、貧の生涯に入りしものにてはあらずぞかし。汽車の踏切の番人、旗振りと云へば、誰人も卑み思ふ職業とは、妾も知る。職業は惣じて神聖なり。車夫も、門番も、その職掌とするところを重んじ、飽まで其の職に忠ならば、位置尊く、身分よくとも、懐手して、無能な生活する人々より、遙か遙か神聖なりとは、高貴の方々よりは僭上よ、生意氣至極よと、或ひは仰せらるべけれど、妾の往昔未だ幾分豐かなる生活せし頃より信ぜし處。

さればとて、現今の貧の生涯の、その往昔の富りし頃の生涯よりも神聖なりなぞやうの負け惜みなぞ決して申すにはあらず。貧の生涯は苦の生涯、苦の生涯は實に人と生れながら生き効の無き生涯よと、妾とても時ならぬ時雨に袖濡すこと人見ぬ時には屢々あり。

世に時めき給ふ方々は、緑に靑に生ひ茂げれる此の夏木立を見給ふてさへ、いかに晴れ〴〵しうも思すらむ。生き効なき生活せる妾には、この晴れ〴〵しさが反つて涙の種にこそなれ、あゝ、厭はしとも厭はしきは、貧の生活ぞかし。

日に幾十回となく、此處を往復する彼の汽車の裡には、餘れる悲愁を胸に裹める方々もあるべし。喜び滿てる方々もあるべし。滿足至極せる方々もあるべし。その喜び滿てる、滿足せらるゝ方々にして、見そぼらしき妾が此の、手には旗、背には子の、云はふやうなき情なき姿見給はゞ何とか思すらむ。此の見そぼらしき姿、情なき身なりの裡には、いかなる悲愁、いかなる浮世の苦勞を疊めるかは、汽車の窓よりの一目にては、お察し下さることも仲々に難しかるべし、また妾とても、決して〳〵お察し下されなぞと願ふにはあらず。されど、昔戀しく、今が怨めしさの情は、妾が胸に切にあり。この切なる胸の裡を、せめて生家の兩親在さば、殘る限なく述べ盡し、心慰さみとする方法もあらんを。

鬼も十八とかや。その十八歳の砌、妾の嫁し頃には、夫の家も仲々に繁昌なりしを、六年、七年、次第につゞくは不幸ばかり。

當初は、酒も嫌、煙草も嫌、假そめにも、不品行のことなぞ莫りし夫の、次第次第に酒に親しみ、不品行に流れしは仰も何故ぞ。貧すれば鈍するとは、誰が云ひ初めけむ。さほど鈍ならざりし夫も、貧苦の苛責に堪え兼ねて、生れつきか何ぞのやうに、鈍なる人にはなりしなりけり。鈍なる夫、貧なる生活、苦しき胸、惱める心。昔戀しや。戀しや昔、貧の境涯は貧せぬ人の知らぬ處、衣服の卑しさ、容貌にて、あれこそ貧なる人よと表面よりは知るゝなるべし。されど貧なる人の心のうち……あゝ此の心のうち、貧と云ふもの知らぬ方々に對つてお目にかけたし。

貧、苦、身を切る愁さ！　女は氏無うして玉の輿とぞ云ふなるに！　貧しからぬ境遇より貧の奈落に落ち行きし此の身さては効なや。

自ら此の身を殺すことをしも、罪なりと知ちさらましかば、あの汽車の下に身を置きて亡びなんを！

毛髮用
パール

支那料理法

成女學校講師　津川千代子

● 炒冬筍（ツオトンリエン）

材料　豚肉九十目○筍小一本○葱一本○生姜一トカケ○スープ一合程○胡椒○鹽○醤油○かたくり粉○ラード

筍をうでて水にひやしてあくをとり、かたき部分は切りすて、細くせん切りに切り、豚肉も同じくせん切りにしておきます。葱は白きところを、生姜は皮をむきて兩方とも細かくみじんに刻んでおきます。鍋を火にかけて、ラード又はヘットを少し入れ溶けましたらその中に前の肉を入れていためます。その中に葱と生姜とを入れてまぜ、竹の子も入れよくいため、充分に火の通つたころ、スープを少しづつ入れます、もしスープのありません時は湯ていたします。そして鹽と胡椒とて味をつけ、醤油をぽつちり入れておかげんを見て、火からおろしぎわにかたくり粉を少し許り水にてときて入れて直におろします。かたくり粉はあまり澤山入れないて、ほんの少しの方がよろしうございます。

● 仲鷄絲（ベンチースー）

材料　豚肉五十目○鷄卵三個鹽○酢、醤油○カラシ少々

鷄卵はきみと白みと別々にわけ。黄みの方に鹽一ト摘みと水をぽつちり入れよくまぜ丼かうすき鍋のやうなものに入れて、蒸籠に入れ湯の充分に煮たつた時にかけて蒸します。そして黄みがかたまつた頃、前に殘しておいた白みに鹽少しを入れて黄みの上に入れ又蒸します。かたまりましたら板の上にあけて細くせん切りに切ります。肉はなるべくロースの處を、煮たつた湯の中に入れて二十分間程うでて、うすくそぎそれを又小口からせん切りに切ります。そして酢一合に醤油三勺程を入れ西洋カラシを入れてまぜ鹽を少し入れて、これて前の二品をまぜあへます。

粧へば
楚艶の姿
月も羞らふべく
艶麗の顔
花も及ばぬべく
美白の膚
雪をも欺くべし
是れ
乳白化粧水レートが
美人を作る特色として世に好評を博し醫學社會に認定られ化粧界に實驗せられ洋行歸りの紳士淑女に愛用せらるゝ第一の原因なり效用此の如き外
芳香は
バラ、スミレの愛すべき佳香は皮膚に浸潤し衣袂に薫りて發散するより獨り花顔玉膚を作るのみならず兼ねて佳香を添へ月雲花に生命を與へて併せ得たらん如き美人となるには別に苦心を費す迄もなく天下一品世界無比の
乳白化粧水レートを
常に用ひて其効用を完ふすれば足れり「レート」は皮膚を外部より美しく粧ふ料にあらで内部より美しくする料なれば皮膚の色素層を美白にする特効ありて單に一時を美しくなし置くものにあらず而して更に佳香の愛すべきものあれば眞に解語花として美しく香ある美人となるには此の外に求むる必要なし

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

スミレ香水　東京平尾賛平商店

女學校案内

相良崇陽

私立三輪田高等女學校

麹町區四番町にあり。三輪田眞佐子刀自の經營に係り敎頭文學士三輪田元道氏と共に專心敎育の任に當る。明治三十五年四月、三輪田女學校として其設立を見るや、趣意書に曰く『凡そ一國の文化と其女子敎育の程度とは比準するものなり。由て世界各國いづれも女子敎育を重んぜざるはなし。されば今後いよいよ我文化を進め以て外は國際上優者の位置を占むるのみならず、内は國民の行ふところ賢に、爲す處善ならしめんと欲せば、ます／＼女子敎育を奬勵せざるべけんや。蓋女子敎育は言ふにやすく、行ふに難きものなり。如何となれば女子は元來幽閑、貞靜、守節、整齊等の德操を養ふを以て樞要となし、智能と體力も亦之に伴はざるべからず。然れども智育と體育とは比較上易しと雖、德育に至りては難中の難と信ず。況して敎育の大本は其國の制度、人情、風俗、及び習慣等に一致すべきは更なり、時勢をも顧みざる可らず。おのれ不敏ながら女子敎育に從事すること幾十年、其の間常に家塾と稱し女生を膝下に集め敎育せしが、其經驗の結果、遂に完全なる人格の女子を作らんには必ず身を以て感化の任に當り、一種の學風を起すに若かざるを悟りぬ。是を以て今回在來の家塾を擴張して三輪田女學校と名づけ、校風的感化の工夫によりて良妻賢母たるを得べき實力の修養を以て目的となす。敢て高等を撰ばず、强て公私を問ふに及ばざるべし。これ自ら本校の必要を認むる以所なり云々』と。以て同校の歷史、並に敎育理想の一般を窺ふに足るべし。爾來一年漸やく時運の發展と時勢の要求にせまられて、技に文部大臣の認可を得、私立高等女學校として今日に至れり。其間養成せし子女無量數百、而して現在六百に近き生徒を收容して專ら其敎育に勉む。蓋し都下女學校中屈指の者として推稱するに躊躇せざるなり。

聞く刀自の亡夫君は勤王の志士なりしと、刀自は自ら其志を繼ぎて國家に貢獻する處有らんと欲し、かくて女子の敎育に從事せられしなりと。されば刀自の敎育方針は國家社會に適應すべき女子の養成にありて、其間寸毫も虛名を傳し自利を事とするの俗に做はず、現在の空名を貪らんと欲するにあらずして未來の繁昌を計らんとし、三輪田一家の利害を考ふるにあらずして、婦人界の福利を增進せしめんとするに在り。故に刀自の希望は、あながちに自家の一信念を固守して偏狹なる敎育主義を實行せんとするよりは、寧ろ、其何人の手によりて營まるゝとも兎に角に女子敎育上有利なりとすれば用ひて以て、敢て墻壁を築かざるなり。現に其生徒を敎導するに當り單に、校長自己の一意見を以て左右する事なく廣く各敎師の協贊を待ちて、初めて實行するが如きは其一例とも見るべし。要するに刀自や元道氏の敎育意見は穩健にして普通的なり、宗敎趣味を帶びずして常識偏理主義なり。歐米風に心醉せざる日本式なり。智的敎育に偏せずして、德育の最高目的なるを認む。其生徒を敎訓するに當りて質實を尙び應用の能あるべきを以てす。同校の卒業生が一家の主婦として其位置を保つとき其家庭が軍人たり、或は商家たり、其他何れなりとするもよく恰當の職責を盡すに遺憾なき修養なりと稱せらるゝを知らば、其校風の如何を窺知するを得ん、該校の聲運日に隆盛に向ふ將に然るべきなり。

終りに同校學則の一般を擧ぐれば文部省令に基く純粹の高等女學校にして、學科時數は略各高等女學校と同じく、修業年限五年、而して初級への入學資格は年齡滿十二歲以上、高等小學二學年修業以上とし、第二學年以上に入學すべき者は前各學年級の課程を終りし者と同等の學力を有する者と定む。次に同校の入學試驗期日は東京府立高等女學校と同日同時間に執行する例なりと、生徒採用の方針が何れに有るかは察するに難からざるべし序でに述ぶ、同校職師の數比を見るに女敎師多くして男敎師の少數なることなり。如斯は單に偶然に出でし現象にあらずして敎師聘用の方針が玆にあるべしと信ず、又以て同校敎育の方針を覺るに足らんか。

新刊!!　實價五拾五錢　郵稅金六錢▼

黑法師著（田口曉舟氏繪）

小說 突羽根

階級制度の弊を痛罵し然して近世戀愛の機微に入る本書の如きは將に是れ時代風潮の至極を描破せる絶好の讀物也

東京日本橋通四角
發行所　春陽堂
振替口座一六一七

獅々のヂャン王（下）

服部嘉香

『火です！』と杖は頭を振る。

『イヤ水だ！』と火は燃えながら。

『ナーに、象ですよ』と水は濟ましたもの。

『チッポけな蟻めの仕業です！』と象は鼻を鳴らして辯解する。

すると豺が『王樣、之では埒が明きませぬ、各自に水かけ論ですと、云ひますと、ヂャン王は暫く考へて、

『此の上は仕方がない、各自が罰し合うやうにせねばなるまい、それでお氣が濟むでせう』とイトクラーに向つて、

『貴方は鼠が嚙つたと云ひましたね』

『然うです！』

『猫！鼠を嚙めい』

猫はヂャン王の命令ですから勢ひ込んで鼠を嚙みました。

『鼠、貴樣は猫の仕業だと云つたね』

『ハイ左樣申しました』と鼠は嚙まれた傷の痛みを堪へて答へました。

『犬！猫を嚙めい』

犬は一聲吠えて、猫の背中を、骨まで徹れとばかり嚙み付きました。

『イヤ猫、貴樣は犬の仕業だと云つたね』

『ハイ申しました』

『チャア、杖！　犬を擲れ』

杖はヒューと風を切つて犬を打つて置いて、『私は穴を明けたりはしません』と云つたもの、、犬が恨めしげに『杖が爲たのです』と云つたので、

『火！　杖を燃やせ』

火はボツボと燃えながら杖を半分ばかり燒いて了いました。

『熱い／＼、火の野郎が爲たくせに』と杖は燻りながら云ひました。

『水！　火を消せい』

水は躍りかゝつてシュッ！と火を消しました。

『寒い／＼、水の野郎がしたくせに』と火は消えながら杖の口眞似をします。

『象！　水を飮めい』

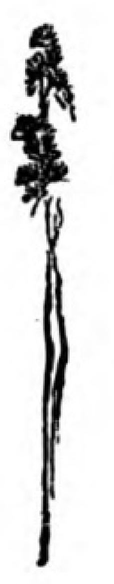
象は鼻を鳴らして水を吞みました。

『蟻！　象を嚙めい！』

蟻はチク／＼象の身體を嚙みました。

豺は之を見て、『ヤー、之で未來永刧ヂャン王國の平和は破れたぞ！』と喜んでゐます。誠に其の言葉の如く、此の刑罰が習慣となつて、其の後は、猫は鼠を嚙むもの、犬は猫を嚙むもの、杖は犬を打つもの、火は木を燃やすもの、水は火を消すもの、象は水を飮むもの、蟻は象を嚙むものと決定つて了いました。ヂャン王國のみならず、動物社會全體が斯くして亂れてしまいました。

然しヂャン王は此の馬鹿げた裁判をした爲めに、今までの如に二本脚で立つて步く能力も權利も失つて、他の四足動物と同樣に四ン這いをするやうになつたのです。加之に、ヂャン王と云ふ尊稱も無くなつて狒々族全體が四ン這いの、只の獸となつて了いました。（かはり）



腦病 精神病 神經病

東京府下〇龜戸町かめゐど停車場ヨリ約十丁
加命堂腦病院
電話浪花二五五二
院長 奈良林淺次郎

新流行渋向き
月印玉飾入無双羽織紐
紳士用九拾五錢、御婦人用廿八錢外數種
東京両國薬研堀十九番地
冨屋糸店
電話浪花三九三二番

御園白粉

御園白粉れり製
御園白粉水製
御園白粉こな製
洋風化粧クリーム 御園の蕾
高貴化粧水 御園とき水
御顔ふきうち白粉 御園なでしこ
濃厚化粧水 御園四季の花
高貴御水油 御園香油
高貴御香水 御園香精
高貴はみがき 御園歯磨

製造本舗　東京芝　胡蝶園　（長）電話新橋七四七番

發賣元　東京日本橋區橋町四丁目　丸見屋商店　（長）電話浪花四四八番　振替貯金六五三六番

御料御園白粉及び御園各種化粧品は創業以來一度も詰替や計賣などした事が御座いませぬ。若し世間に右樣の小賣を爲すものがありましたなら夫は僞物で御座います

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

貧

山田くに子

上流人士は夢にも御存知なき、妾が貧の半生。

博愛慈善の心に富ませ給ふ、上流人士のお袖にすがり、慈悲、乞力を仰がんの心にては全然なけれども、唯だ〳〵世の中には『貧の生涯』と云ふものあり、斯う云ふのが『貧の生涯』なりと、未だ貧と云ふもの御存知なき、上流人士のお目に留めたさに、斯くは記すなり。

何の嬉しうて當初より貧の生涯を送くられうものぞ。

妾とて生れ落つるとゝも、貧の生涯に入りしものにてはあらずぞかし。汽車の踏切の番人、旗振りと云へば、誰人も卑み思ふ職業とは、妾も知る。職業は愬じて神聖なり。車夫も、門番も、その職掌とするところを重んじ、飽まで其の職に忠ならば、位置尊く、身分よくとも、懐手して、無能な生活する人々より、遙か遙か神聖なりとは、高貴の方々よりは僭上よ、生意氣至極よと、或ひは仰せらるべけれど、妾の往昔未だ幾分豊かなる生活せし頃より信ぜし處。

されぱとて、現今の貧の生涯の、その往昔の富りし頃の生涯よりも神聖なりなぞやうの負け惜みなぞ決して申すにはあらず。貧の生涯は苦の生涯、苦の生涯は實に人と生れながら生き効の無き生涯よと、妾とても時ならぬ時雨に袖濡すこと人見ぬ時には屢々あり。世に時めき給ふ方々は、緑に青に生ひ茂げれる此の夏木立を見給ふてさへ、いかに晴れ〴〵しうも思すらむ。生き効なき生活せる妾には、この晴れ〴〵しさが反つて涙の種にこそなれ、あゝ、厭はしとも厭はしきは、貧の生活ぞかし。日に幾十回となく、此處を往復する彼の汽車の裡には、餘れる悲愁を胸に裹める方々もあるべし。喜び滿てる方々もあるべし。滿足至極せる方々もあるべし。その喜び滿てる、滿足せらるゝ方々にして、見そぼらしき妾が此の、手には旗、背には子の、云はふやうなき情なき姿見給はゞ何とか思すらむ。此の見そぼらしき姿、情なき身なりの裡には、いかなる悲愁、いかなる浮世の苦勞を疊めるかは、汽車の窓よりの一目にては、お察し下さることも仲々に難しかるべし、また妾とても、決して〳〵お察し下されなぞと願ふにはあらず。されど、昔戀しく、今が怨めしさの情は、妾が胸に切にあり。この切なる胸の裡を、せめて生家の兩親在さば、殘る限なく述べ盡し、心慰さみとする方法もあらんを。鬼も十八とかや。その十八歲の砌、妾の嫁し頃には、夫の家も仲々に繁昌なりしを、六年、七年、次第につゞくは不幸ばかり。

當初は、酒も嫌、煙草も嫌、假そめにも、不品行のことなぞ莫りし夫の、次第〳〵に酒に親しみ、不品行に流れしは抑も何故ぞ。貧すれば鈍するとは、誰が云ひ初めけむ。さほど鈍ならざりし夫も、貧苦の苛責に堪え兼ねて、生れつきか何ぞのやうに、鈍なる人にはなりしなりけり。鈍なる夫、貧なる生活、苦しき腕。惱める心。昔戀しや。戀しや昔、貧の境涯は貧せぬ人の知らぬ處、衣服の卑しさ、容貌にて、あれこそ貧なる人よと表面よりは知るゝなるべし。されど貧なる人の心のうち……あゝ此の心のうち、貧と云ふもの知らぬ方々に割つてお目にかけたし。貧、苦、身を切る愁さ！　女は氏無うして玉の輿とぞ云ふなるに！　貧しからぬ境遇より貧の奈落に落ち行きし此の身、さては効なや。自ら此の身を殺すことをしも、罪なりと知ちざらましかば、あの汽車の下に身を置きて亡びなんを！

毛髮用
パール
赤坂すゞ町
平尾分店

支那料理法

成女學校講師　津川千代子

●炒冬筍（チャオトンリュン）

材料　豚肉九十目○筍小一本○葱一本○生姜一トカケ○スープ一合程○胡椒○鹽○醬油○かたくり粉○ラード

筍をうて水にひやしてあくをとり、かたき部分は切りすて、細くせん切りに切り、豚肉も同じくせん切りにしておきます。葱は白きところを、生姜は皮をむきて兩方とも細かくみじんに刻んでおきます。鍋を火にかけて、ラード又はヘットを少し入れ溶けましたらその中に前の肉を入れていためます。その中に葱と生姜とを入れてまぜ、竹の子も入れよくいため、充分に火の通つたころ、スープを少しづつ入れます、もしスープのありません時は湯ていたします。そして鹽と胡椒とて味をつけ、醬油をぽつちり入れておかげんを見て、火からおろしぎわにかたくり粉を少し許り水にてときて入れて直におろします。かたくり粉はあまり澤山入れないで、ほんの少しの方がよろしうございます。

●伴鷄絲（パンチースー）

材料　豚肉五十目○鷄卵三個○鹽○酢、醬油○カラシ少々

鷄卵はきみと白みと別々にわけ。黃みの方に鹽一ト摘みと水をぽつちり入れよくまぜ丼かうすき鍋のやうなものに入れて、蒸籠に入れ湯の充分に煮たつた時にかけて蒸します。そして黃みがかたまつた頃、前に殘しておいた白みに鹽少しを入れて黃みの上に入れ又蒸します。かたまりましたら板の上にあけて細くせん切りに切ります。肉はなるべくロースの處を、煮たつた湯の中に入れて二十分間程うでて、うすくそぎそれを又小口からせん切りに切ります。そして酢一合に醬油三勺程を入れ西洋カラシを入れてまぜ鹽を少し入れて、これて前の二品をまぜあへます。

粧へば
楚艶の姿
月も羞らふべく
艶麗の顏
花も及ばぬべく
美白の膚
雪をも欺くべし
是れ
乳白化粧水レートが
美人を作る特色として世に好評を博し醫學社會に認定られ化粧界に實驗せられ洋行歸りの紳士淑女に愛用せらるゝ第一の原因なり効用此の如き外
芳香は
バラ、スミレの愛すべき佳香は皮膚に浸潤し衣袂に薫りて發散するより獨り花顏玉膚を作るのみならず兼ねて佳香を添へ月雲花に生命を與へて併せ得たらん如き美人となるには別に苦心を費す迄もなく天下一品世界無比の
乳白化粧水レートを
常に用ひて其効用を完ふすれば足れり「レート」は皮膚を外部より美しく粧ふ料にあらで内部より美しくする料なれば皮膚の色素層を美白にする特効ありて單に一時を美しくなし置くものにあらず而して更に佳香の愛すべきものあれば眞に解語花として美くしく香ある美人となるには此の外に求むる必要なし

Digitized by Google　　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

スミレ香水
東京平尾資分店

女學校案内

相良崇陽

私立三輪田高等女學校

麹町區四番町にあり。三輪田眞佐子刀自の經營に係り校頭文學士三輪田元道氏と共に專心教育の任に當る。明治三十五年四月、三輪田女學校として其設立を見るや、趣意書に曰く『凡そ一國の文化と其女子教育の程度とは比準するものなり。由て世界各國いづれも女子教育を重んぜざるはなし。されば今後いよいよ我文化を進め以て外は國際上優者の位置を占むるのみならず、内は國民の行ふところ賢に、爲す處善ならしめんと欲せば、ますます女子教育を奬勵せざるべけんや。蓋女子教育は言ふにやすく、行ふに難きものなり。如何となれば女子は元來幽閑、貞靜、守節、整齊等の德操を養ふを以て樞要となし、智能と體力も亦之に伴はざるべからず。然れども智育と體育とは比較上易しと雖、德育に至りては難中の難と信ず。況して教育の大本は其國の制度、人情、風俗、及び習慣等に一致すべきは更なり、時勢をも顧みざる可らず。おのれ不敏ながら女子教育に從事すること幾十年、其の間常に家塾と稱し女生を膝下に集め教育せしが、其經驗の結果、遂に完全なる人格の女子を作らんには必ず身を以て感化の任に當り、一種の學風を起すに若かざるを悟りぬ。是を以て今回在來の家塾を擴張して三輪田女學校と名づけ、校風的感化の工夫によりて良妻賢母たるを得べき實力の修養を以て目的となす。敢て高等を撰ばず、强て公私を問ふに及ばざるべし。これ自ら本校の必要を認むる以所なり云々』と。以て同校の歷史、並に教育理想の一般を窺ふに足るべし。爾來一年漸やく時運の發展と時勢の要求にせまられて、玆に文部大臣の認可を得、私立高等女學校として今日に至れり。其間養成せし子女無量數百、而して現在六百に近き生徒を收容して專ら其教育に勉む。蓋し都下女學校中屈指の者として推稱するに躊躇せざるなり。

聞く刀自の亡夫君は勤王の志士なりしと。刀自は自ら其志を繼ぎて國家に貢獻する處有らんと欲し、かくて女子の教育に從事せられしなりと。さればにや刀自の教育方針は國家社會に適應すべき女子の養成にありて、其間寸毫も虛名を傳し自利を事とするの俗に倣はず、現在の空名を貪らんと欲するにあらずして未來の繁昌を計らんとし、三輪田一家の利害を考ふるにあらずして、婦人界の福利を增進せしめんとするに在り。故に刀自の希望は、あながちに自家の一信念を固守して偏狹なる教育主義を實行せんとするよりは、寧ろ、其何人の手によりて營まるゝとも兎に角に女子教育上有利なりとすれば用ひて以て、敢て墻壁を築かざるなり。現に其生徒を教導するに當り單に校長自己の一意見を以て左右する事なく廣く各教師の協贊を待ちて、初めて實行するが如きは其一例とも見るべし。要するに刀自や元道氏の教育意見は穩健にして普通的なり、宗教趣味を帶びずして常識偏理主義なり。歐米風に心醉せざる日本式なり。智的教育に偏せずして、德育の最高目的なるを認む。其生徒を教訓するに當りて質實を尙び應用の能あるべきを以てす。同校の卒業生が一家の主婦として其位置を保つとき其家庭が軍人たり、或は商家たり、其他何れなりとするもよく恰當の職責を盡すに遺憾なき修養なりと稱せらるゝを知らば、其校風の如何を窺知するを得ん、該校の聲運日に隆盛に向ふ將に然るべきなり。

終りに同校學則の一般を擧ぐれば文部省令に基く純粹の高等女學校にして、學科時數は略各高等女學校と同じく、修業年限五年、而して初級への入學資格は年齡滿十二歲以上、高等小學二學年修業以上とし、第二學年以上に入學すべき者は前各學年級の課程を終りし者と同等の學力を有する者と定む。次に同校の入學試驗期日は東京府立高等女學校と同日同時間に執行する例なりと、生徒採用の方針が何れに有るかは察するに難からざるべし序でに述ぶ、同校聘師の數比を見るに女教師多くして男教師の少數なることなり。如斯は單に偶然に出でし現象にあらずして教師聘用の方針が玆にあるべしと信ず、又以て同校教育の方針を覺るに足らんか。

新刊!!
實價五拾五錢　郵稅金六錢▼
黑法師著（田口氏代繪 晩舟）
小說 突羽根
階級制度の弊を痛罵し然して近世戀愛の機微に入る本書の如き將に是れ時代風潮の至極を描破せる絕好の讀物也
發行所　東京日本橋通四角　春陽堂　振替口座一六一七

獅々のヂャン王（下）

服部嘉香

『火です！』と杖は頭を振る。

『イヤ水だ！』と火は燃えながら。

『ナーに、象ですよ』と水は濟ましたもの。

『チッポけな蟻めの仕業です！』と象は鼻を鳴らして辯解する。

すると豺が『王樣、之では埒が明きませぬ、各自に水かけ論ですと、云ひますと、ヂャン王は暫く考へて、

『此の上は仕方がない、各自が罰し合うやうにせねばなるまい、それでお氣が濟むでせう』とイトクラーに向つて、

『貴方は鼠が嚙つたと云ひましたね』

『然うです！』

『猫！　鼠を嚙めい』

猫はヂャン王の命令ですから勢ひ込んで鼠を嚙みました。

『鼠、貴樣は猫の仕業だと云つたね』

『ハイ左樣申しました』と鼠は嚙まれた傷の痛みを堪へて答へました。

『犬！　猫を嚙めい』

犬は一聲吠えて、猫の背中を、骨まで徹れとばかり嚙み付きました。

『イヤ猫、貴樣は犬の仕業だと云つたね』

『ハイ申しました』

『ヂャア、杖！　犬を擲れ』

杖はヒューと風を切つて犬を打つて置いて、『私は穴を明けたりはしません』と云つたもの、、犬が恨めしげに『杖が爲たのです』と云つたので、

『火！　杖を燃やせ』

火はポッポと燃えながら杖を半分ばかり燒いて了いました。

『熱い〳〵、火の野郞が爲たくせに』と杖は燻りながら云ひました。

『水！　火を消せい』

水は躍りかゝつてシュッ！と火を消しました。

『寒い〳〵、水の野郞がしたくせに』と火は消えながら杖の口眞似をします。

『象！　水を飮めい』

象は鼻を鳴らして水を呑みました。

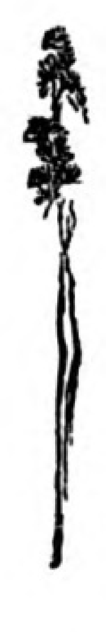
『蟻！　象を嚙めい！』

蟻はチク〳〵象の身體を嚙みました。

豺は之を見て、『ヤー、之で未來永刧ヂャン王國の平和は破れたぞ！』と喜んでゐます。誠に其の言葉の如く、此の刑罰が習慣となつて、其の後は、猫は鼠を嚙むもの、犬は猫を嚙むもの、杖は犬を打つもの、火は木を燃やすもの、水は火を消すもの、象は水を飮むもの、蟻は象を嚙むものと決定つて了いました。ヂャン王國のみならず、動物社會全體が斯くして亂れてしまいました。

然しヂャン王は此の馬鹿げた裁判をした爲めに、今までの如に二本脚で立つて歩く能力も權利も失つて、他の四足動物と同樣に四ン這いをするやうになつたのです。加之に、ヂャン王と云ふ尊稱も無くなつて狒々族全體が四ン這いの、只の獸となつて了いました。

（をはり）



精神病 神經病　腦病
東京府下〇龜戸町　かめゐど停車場ヨリ約十丁
加命堂腦病院
電話浪花二五五二
院長　奈良林淺次郎

新流行澁向き
月印王飾入無双羽織紐
紳士用九拾五錢　御婦人用廿八錢外數種
東京兩國藥研堀十九番地
冨屋糸店
電話浪花三九三二番

御園白粉
御園白粉（ねり製）
御園白粉（水製）
御園白粉（こな製）
御園の蕾（洋風化粧クリーム）
御園とき水（高貴化粧水）
御園なでしこ（御顔ふきうち白粉）
御園四季の花（濃厚化粧水）
御園香油（高貴御水油）
御園香精（高貴御香水）
御園齒磨（高貴はみがき）
製造本舖　東京芝　胡蝶園　（長）電話新橋七四七番
發賣元　東京日本橋區橘町四丁目　丸見屋商店　（長）電話浪花四四八番　振替貯金六五三六番
御料御園白粉及び御園各種化粧品は創業以來一度も詰替や計賣などした事が御座いませぬ。若し世間に右樣の小賣を爲すものがありましたなら夫は僞物で御座います

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

露の榮（一）

村山　貞子

環はもう三人の母となつた。佐川に輿入れしてから八年、自分でも隨分老けたのに驚いて居る。生れた子供の二人目迄は家の生計も可成有福に、屋敷も廣く、貸家も二三軒あり、下婢と子守を置いても樂にして行けたので、入込んだ義理合の間に成長た環は勿論、生家の人々も先づ安心と思つて居た。然し三人目の兒が生れた頃、義侠心に富んだ夫武彦は、友人の急を救ふ爲めに、屋敷を人手に渡し借家住居の狹い處に入る事になつた。環は姑のやさしいのをせめてもの便とし、學生上りの慣れぬ身に三人の子供を抱えて、臺處の隅にあれた手を眺めた事も度々であつた。生家に居た頃には日毎に觸れた秘藏の琴も今は蜘蛛の巣のくふに任せ、生花の鉈は木端を割る臺所の重寶となつた。然し環は此樣事はなんとも思つては居なかつた、男らしい内にも優しい夫は彼の唯一の頼で、昔上流に育つた姑はよい手引であつた。加之三人の子供は環の目には貴い珠の樣に見えた、佐川家の環としては實に幸福な身だと思つて居る。夫の友人は皆「佐川は餘り江戸兒過ぎてあんなになつたのだ。」といつて居る、環も時々今の境遇を腹立しくも思ふけれど、平然として居る夫を見ると又嬉しく心強い感がした。然し種々氣苦勞のあつた母の胎内から生れて、而も幾分餘裕のある處に育つた身は、一度生家の事に思ひ及ぶと何時も悲くなつて來て、今の身の敢果なくも情なく、夫の餘り物に頓着せぬのかを怨めしく成つて、思ひ餘つた時には惡いと知りながらも怨の數々並べる事も度々である。

二三日前から環は又此病に罹つて居る、環の生家で、環には親とも恩人とも見るべき長兄龍哉の三男が生れて、今日は其宮詣に相當るのに、未だ祝にも行けぬので、七夜頃から氣を揉み出した環は悲の餘り今朝から物を云ふのも厭はしい程深い思に沈んだ、大方推察して居る夫は今朝早く飜譯物の包を抱えて出て行つた後を、一人火鉢の前に、自分と同じ境遇の人となつて、今は立派に母や兄に報恩の道を立て、居る小兄の事を思ふては一入艱く、側に寢て居る子供の顏も目に入らず、遊に出て居る二人の事も忘れて居ると、御隣の奧樣の此頃初めたらしい調子も如何な松盡がポツン々々々初まる、常日は「あゝあすこ、」とか「十がもうすこし、」とか思ふのに、今日は何となく腹立しく覺えた。「女には學問も要るけれど、若しや妻君同志集つた時耻でもかく樣では自分一人では濟まない、夫の耻にも成る。去りとて嫁して仕込まれる樣な事では緣家へは勿論、世間へ對して僕の申譯が立たない。」と十一の年から片附まで十年の間絶えず學んだ身は、其有難い心盡の甲斐もなく、琴を彈く手に御釜の底を擦つて居る。子供の内から親んで居た机まで、家を引拂ふ時邪魔にされて、道具屋に渡されてからもう三年、どんな人の手に渡されて居るかしら。

嗚々私は何も身についた慾はないけれど、無謀な父の手から救はれて、母と兄とに養はれたのだから、こんな時に責めてはメリンスの友仙なりと心ばかりでも屆けたら「環からか」と母樣が喜んで下さるだらうに、」など、遠い昔の幼い時の事まで思ひ起して悲しんだ。

ひばり草紙

木村　小舟

春も半ばとなりまして、雲雀の兩親は、その子を麥の根元の巣の中で、大切にかけて育てゝ居るのです、雲雀の子は、卵を出たばかりの時は、少しも目が見えませんので、どれが自分のお父さんやら、お母さんやら分らず、また自分がどんな所に居るかと云ふことも知りませんでした。

雲雀のお父さんは、朝早くから巣を出て、方々飛び廻り、そして子供の口に合ふ樣なおいしい食べ物を見付けて來るので、又お母さんは毎日子供の守りをして居るのです、もしお父さんもお母さんも、みんな巣を出て仕舞へば、其留守中に惡者が來て、子供を捕へて食つて仕舞ふやうな事があつては困りますから、お母さんは決して巣を明けた事がありません。

お父さんは時々小さな虫を捕へて來ますが直ぐと又捜しに出ますので、夫れを料理して、羽や足を取つて、よい所ばかり食はしてやるのは、お母さんの役目でありました。

或る日の事です、お母さんは例の通り虫を料理して食べさせ樣としますと、子供はお腹が空いて居たと見えて、お母さんの呉れるのを待たないで、いきなり頭からムシャ〱食はうとしますと、さア大變です、咽に虫の足がつかえたものですから、子供はキャッ〱と云つて苦しがります、お母さんは氣を採んで、どうかして取つてやらうと思ひましても、餘り子供が悶えるものですから、手のつけ樣も御座いません。

すると此騷ぎを聞きつけて、ノソリノソリやつて來ましたのは、麥圃の中の孔に居る蛇と云ふづるい虫、これは雲雀の大禁物ですから、お母さんはもう眞青になつて、どうすればよいかと、頻りに心配して居りますと、蛇は遠慮なく入つて來て、

『蛇』何だ大變に騷々しいてはないか、隣りに住んで居て默つてる事も出來んからやつて來ました、一體どうしたのだ』

と、さも横柄に尋ねますので、雲雀のお母さんも仕方なしに、

『母』オヤ何方かと思つたら蛇の旦那ですか、どうも御心配をおかけ申してすみません、只今子供が疎匆を致しまして、騷いて居ります始末て……』

と答へますと、蛇はさも馴々しく、

『蛇』オヤ〱夫れは大變だ、私がいゝ事を知つてるから、そんなに心配せんてもよい、幸ひ私にはかう云ふ長い舌片があるから、之れて卷いて取れば、咽にからまつた物は何でも取れるのだ』

と赤い舌をベロリ〱と出して見せますのでお母さんは、疑はぬでもありませんでしたが、餘り蛇が親切に云ふものですから、

『母』左樣で御座いますか、御親切に有り難う御座います、何れ夫の歸りました上て、又お願ひ申すて御座いませう』

と、體よく斷らうとしましたが、元々蛇は野心があつて來たのですから、落付き拂つたもので、

『蛇』なる程、夫れに違ひない、併しお前さんよく聞きなさい、夫の歸りを待つなんて、そんな呑氣なことが言つて居られますか、愚圖々々すれば、可愛い子供が死んで仕舞ふぢやないか』

と蛇は無理に傍へよつて、子供の療治をする樣に見せかけ、大きな口を開いて、今にも一口に呑んで仕舞はうとする、この時遲く、かの時早く、今迄空て餌物を捜して居た鳶は、急に雲雀の巣に舞ひ下り、逃げ後れてる蛇を口に加へたまゝ、悠々〱として又空へ上つて行きました。そこへお父さんは、急いで歸つて來ましたが、惡者の蛇が殺されて仕舞つたので、家内三人大喜びで、其御馳走に舌皷を打ちましたとさ。

めでたし〱

尚例年の如く手ぬぐい中形も本年は特に新形を撰み格安にさし上可申候

おばなやか居

めりんす友染の形がよくて大安賣する
おなじみの日本橋區人形町通り赤のれんおばなやにて
本年は木綿中形おゆかた地を製造元と特約いたし實に目のさめる樣な頗る粋き向き新柄及格安物ばかり取揃へ賣始め申候間御らん旁々御光來の程奉願上候

Digitized by Google　　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

尊しや園生の君より

常に御用を忝ふせるクラブ洗粉

貴しやクラブ洗粉の此の光榮

已に貴族の御用品たるに至れるクラブ洗粉

輕からんやクラブ洗粉製造家の責任

世界一の尊き園生より御用を忝ふせるクラブ洗粉が

世界中最良なるものにあらずして可ならんや

美しくなるクラブ洗粉を勸む

使へば使ふほど美しく成るはクラブ洗粉が第一なり

匂ひの好きクラブ洗粉を勸む

入浴しての後も匂ひ好きはクラブ洗粉の特色なり

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

新體詩

花あやめ

編輯局同人選評

一等　香川　瀬高やす子

嫁くひと

いざめせと
乳母が進むる晴れの衣
暮れなば我よ人妻か
胸の血汐のさゆらぎや
情しめやぐ垂乳根の
御いましめの數々も
なかばはうつゝ我頬の
ほてりに消えぬ夢ごゝろ。

評　纏綿たる情緒眞にせまれり。

二等　東京　奥津光子

死

熱やめる夜の十一時
ふと人に目かくしされて
右左歩み佇ずみ
見も知らぬ路こそたどれ
母よべど母の影なく
谺のみわれを嘲ける。
また行けばこは大野原
幽暗の森にうれたう
黒の鳥血を吐き啼くや
そのあたり見ゆる火の城
わが足の向へる刹那
赤き鬼、青き人らの
目を掠めつと過ぎ去りぬ。

評　原作は意あまりて詞足らざる顯があつた。然し着想が佳かつたから多少修正して選に入れた。

佳作

紅絹　岩代　長谷川吉野子

君が心は紅絹の
洗ふにつれて色あせぬ
すゞげは冴ゆる白木綿の
われに似ねこそ怨みなれ。

評　四行詩の上々なるもの

お花　おらが隣の評判娘

お花十八嫁にも行かず
村の端れの青葉の森の
森のこかげに茶店を出して
紅いたすきに小粋な浴衣
氷かきく愛嬌賣る

評　語句妙致、歌ひ得て佳。

小犬　廣島　金原なを子

胸に抱かれて頬ずりも
露しらぬかに打眠る
罪なき小狗母犬の
馳せゆくを見て
少娘が玉のかいなゆ降りんとや
目ざめて藻掻く。日は眞晝。

評　着想整ひたり。

雨　下野　黒須喜久子

雨よぶらしく小蛙の
唄ふ小歌に雲いてゝ
黒に灰はみ暗澹と
霞むと見ればそぼくと
降りこそ出てぬ夕まぐれ

評　夜雨の光景よく現されたり。

胸の海　青森　竹林秋子

わが胸の海不思議にも
風こそ吹かね波あらく
浮かべる舟に梶もなし
目ざすはいづこあゝその日
花の樹蔭に見し君か。

評　もつと深刻に詠つて戴きたい。

君に捧げむ　岡山　入木清子

胡蝶の夢よ安かれと　忍び足して我が園の
今朝咲きそめし花うつぎ　二枝三枝たをり來て
君に捧げむ。斯く思ひ　ほゝ笑み行けば花の散る。

評　漸々進歩の跡見えていと頼母し。倦まず勉めたまへ。此の詩また佳なり。

ひなうた　青森　石森嘉忠

燃ゆるが如き夕雲の　光は西に流れたり
忙しや水車の音　繪に似たる村の秋
尾飼ひ入るゝ里の子の　聲美しき鄙ぶりも
健なりて日も暮ぬれば　木枯の風のみぞ吹く。

評　本號詩壇有數の佳作。

青葉　東京　久野

佐保姫が御車は　かくれ給ひぬ遠雲に
あはれ昨日の花の影　胡蝶の夢も醒めはてゝ
今日は青葉のいろ深く　涼しき風の通ふかな

評　一層の洗練を要す。

たき　東京　吾妻初子

神のみわざの畏くしき　峰と峯との間より
岩燕とび苔むせる　深山の奥中ほとばしり
雪か花かと散り亂る　瀑布のさまこそ壯んなれ
あゝ聞く毎に若う人の　煩悶の身をば沈めしと。

評　原作は七七調で冗語が多かつた。

朝　東京　清水以禰

春雨はれし日の朝　大路のちりもおさまりて
宮居の森の青々と　日の光また輝きぬ

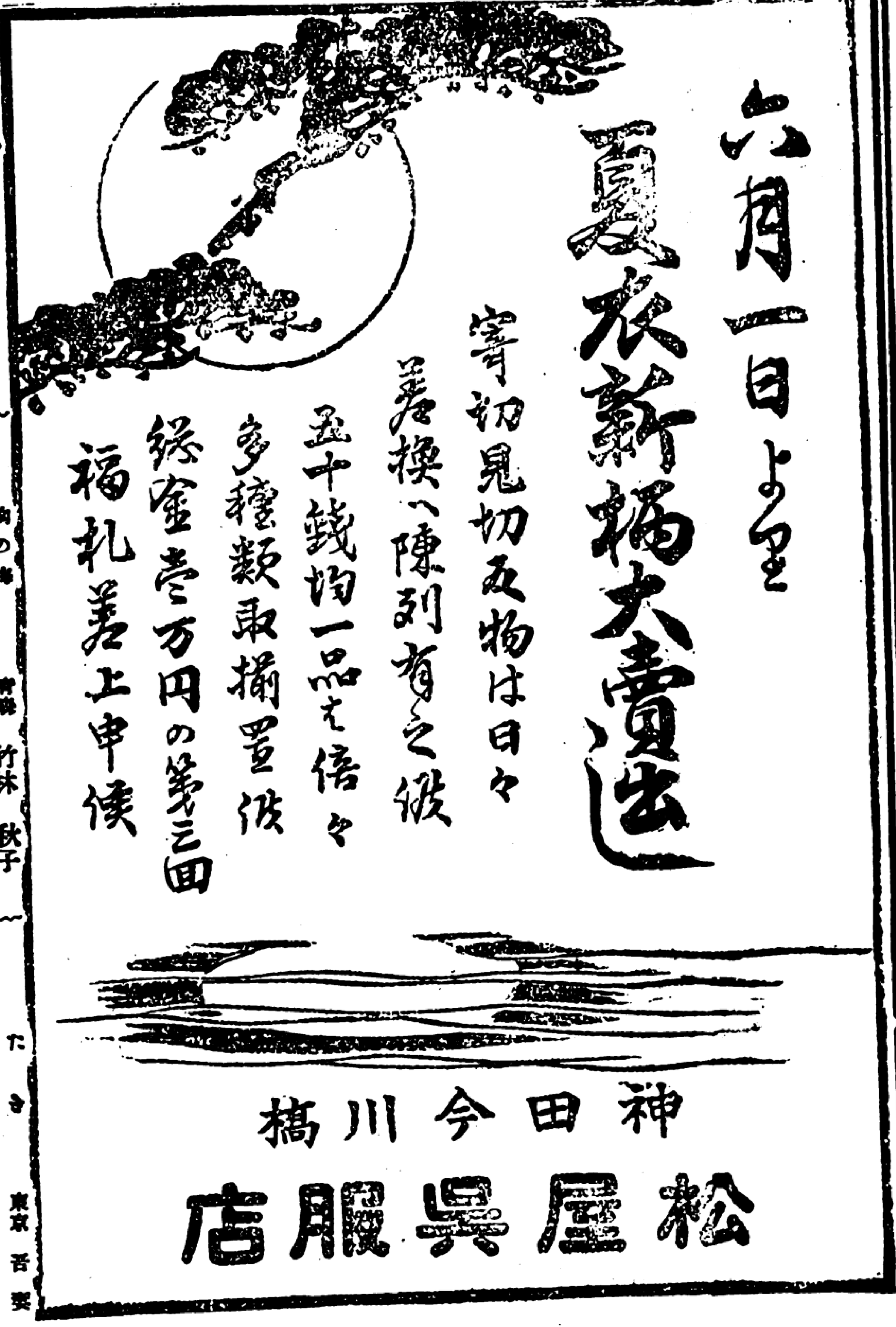
思　佐賀　小林かめ子

かたみに文はかよへ共　そのうつし繪は手にあれど
文には君のこゑもなく　繪がきし口に[illegible]し
都の空をながむれば　つばめの一つとぶ見えて
降り込む雨に物寂し。

評　観察を新しくして詠はれなば、佳作を得たまひしならんと。

選外佳作

▽折にふれて　鈴木まつ子▽友に　清水松子▽谷間の白百合　桂木消閑女▽初蝉　西山數子▽其他十二名。
右はとりぐに目出度作品なれど、紙面の都合にて採錄し兼ねたり。次回にはたゆまず應募せられむことを乞ふ。

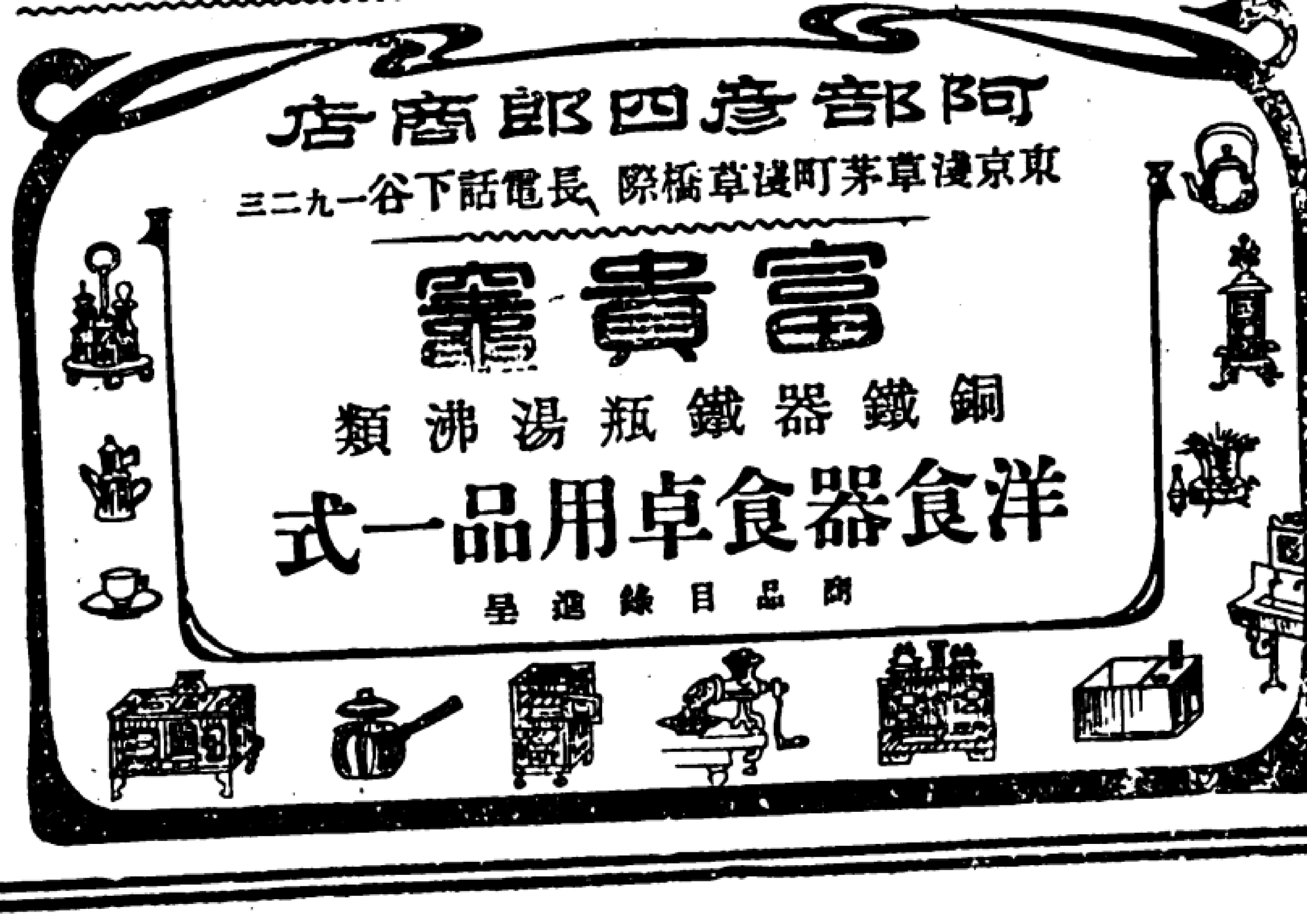


金銀盃類

貴金屬寶石美術品袋物一切何品に依らず迅速と廉價を旨とし誠實に新調又は改作の御用相勤め可申候間何卒一層の御引立を以て多少に不拘御下命被下度奉願上候

宮内省御用達　玉寶堂

電話下谷　特九六五番　一二四四番



Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

俳句

内藤鳴雪選評

天　青森　竹林秋子
大空に天女の舞ひや春の雲
評　君が代は五穀豊なし

地　栃木　黒須喜久子
衣替て凡天下の人ごゝろ
評　又日々に新なれ

人　三重　長井みどり
草庵に僧の軒や竹の風
評　即身成佛

佳作

山吹や傘さして立つ庭の人　三重　長井直子
打水や木の葉がくれに星見ゆる　仝上　仝　人
夕顔に金屏たゝむ女かな　仝上　仝　人
巻きあぐる玉の簾に風かをる　仝上　仝　人
牛乳しぼる少女に軒の若葉哉　仝上　長井みどり
原句　少女気高き若葉かな
錦着てそゞろに寒し春の宵　東京　保坂芳子
大根の花や岡へ嫁が来る　仝上　仝　人
竹林や病に籠る右大臣　仝上　仝　人
登校の第一日や春の風　仝　仝　人
行春の見送る舟や嶋かくれ　三重　荘司種子
原句　行春を
朝月のけろりと白し苗代田　高崎　馬淵美子
ゆく春や豆の花咲く京はづれ　京都　太田久野子
春の夜や人なつかしき絹行燈　東京　吾妻初子
原句　春の宵や
振り返る[illegible]ヶ岡や春の暮　東京　小山秀賢
原句　みれんある[illegible]ヶ岡や
駒下駄の跡なつかしや春の雨　東京　林隆勝
原句　下駄の跡まだ其儘や
春の日を傘張る店の小庇かな　東京　望月春子
原句　店に傘張る小僧哉
初雷に暫し聲なき小鳥かな　備後　世良龜子
つゝじ咲く遠き小山や薄霞　京都　文菜ふき子
菜の花に鶏遠く遊びけり　仝上　仝　人
菜の花の中に川あり牛洗ふ　京都　英城茂子
暖かき雨の夕や初蛙　仝上　仝　人
椽端に猫の寝姿や藤の花　仝上　仝　人
原句　庭隅に
うたゝねの夢にも嵯峨の桜哉　三河　石川類子
文使の嵯峨野を歸るおぼろ月　岩代　長谷川吉野子
舟に見る三井寺の灯や湖朧　京都　安井千勢子
原句　結句月朧
鶯の聲もまだして春の山　東京　小山學茂
原句　結句春の暮
春の蚊の静閑に耳に唸て来る　紀伊　中橋多麻子
原句　なほざりの耳をそひけり
雨晴れて洗ひ晒しや青葉山　廣島　金原直子
原句　洗ひ晒せる
袷着て釋迦堂み訪ふ人は誰れ　下野　那須の花
原句　釋迦堂訪ひし
境内に餅うる店や春の風　岡山　四村長子
珍しき顔なりけり新茶賣　下野　黒須輝子
原句　顔見えけり新茶店
御簾捲て雲の峯みる官女哉　東京　足立きく子
原句　結句宮居哉
山も海も唯だ縹渺と霞かな　能登　松本千代子
長き日や染上りたる糸のつや　東京　彦坂たき子
藤かげや鯉が麩を賣る神の池　京都　渡邊豊子
釣舟に女も具して春の水　東京　中山由子
ぬりかへし観音堂や風光る　仝上　栗山てい子
灯の下に摘草わくる少女かな　仝上　山本しげ子
原句　灯して摘草わくる
轉寝の傾城一人宵の春　東京　鶴岡とく子
ほの〳〵と夜は明にけり人丸忌　三重　西山ひさゑ
大鯉の腹臭しや春の水　青森　竹林秋子

女徳論叢の出版

不思議なる懸賞つき『女徳論叢』は、大好評の裡に既に出版に成りました。申込の方々は日々非常に澤山御座いますから、品切れにならぬ内この際申込下さい。
但し代價金二十六錢、郵税金四錢で御座います。

△タイムスダンプによる景品贈呈法　本月一日より日本橋區旅籠町大丸呉服店にては新柄浴衣地賣出し餘興としてタイムスダンプにより商品切手の景品を提供する由、但し右擧行日は一日、五日、六日、七日、十三日、十五日の七日にて景品引換は當日以後二日間とし其後は無効とするとのことなるが、愈々開始するに於ては定めし賑はふことなるべし

大勝堂
東京銀座通尾張町
電話新橋二二六四番

肺炎に罹りたる後スコット乳菓を用て健全となりたる例證

愚息儀肺炎に罹り満三ヶ月間伏牀罷在り萬一回復するも結局は肺結核となるべしとの事にて總身肉落ち骨顯れ見るも不憫の容体と相成申候然るに醫師の勸告に由りスコット乳菓を服用せしめ候處未だ一壜も飲み盡さゞるに食慾大に進み總ての經過良好となり現今にては却て罹病前の何れの時よりも健全にて相替らずスコット乳菓を嗜好致候拙者共はスコット乳菓が愚息に與へたる好果を觀て右愚息の平癒を以て全くスコット乳菓の効驗の致す所と確認致候

Always get the Emulsion with this mark—the Fishman—the mark of the "Scott" process!

千九百六年三月十一日
シーフキルド、ドールセット街六拾三番地
ジョン、イー、プレーキー

右快復の理由

右ジャッキー、ブレーキー、が肺結核とならずして快復したるは全くスコット乳菓中に含有する優逸なるロフオテン大口魚肝油（最上等にして最高價なる肝油）が其肺臓を癒やし其全身に良好堅緻なる筋肉を造成せしむるの精力を有したるが爲めなり
他のありふれたる大口魚肝油乳菓は斯くスコット獨得の完全なる製法に由りて充分に消化し易くせられたる最も純良にして最も活力に富める肝油にて製せられたるものに非らざるが故に斯の如き偉功を奏する能はず
包装の大口魚を負へる漁夫は前述の如き驚くべき快復が唯偶然のことに非らずして確實の事實なることを保證す

資本金千八百萬圓
東京京橋區木挽町
株式會社　十五銀行
電話新橋　一三〇〇番　一五三〇番　一九三三番
同日本橋區新乗物町
同　日本橋支店
電話浪花　一九〇一番　三二七四番　三五〇八番
一　定期預金　六ヶ月以上年五分
一　當座預金　日歩七厘以下
一　特別當座預金

胃病良薬
太田胃散

女子正則英語學校
生徒募集
補欠生募集願書至急を要す規則二錢送れ
神田錦町三　警察向の一
女子正則英語學校

本品は畏れ多くも
常宮殿下
周宮殿下
富美宮殿下
泰宮殿下
御使用品
高等香油
チエリーオイル
紳士貴婦人令嬢用

千九百七年武巴里流行
乳状薄化粧料
フエスクリーム

珍ら敷新輸入品
最も日本婦人に適し皮膚の營養滑澤に實効ある
佛蘭西新式煉白粉代用品
本品は顔を洗ひ乾きたる後少量を萬遍なくぬり摩擦すれば實に得も云へぬなめらかによきつやを出し香氣よくあれを防ぎ白粉やけ皺のよる憂なし又あぶりの汚れることなき嶄新良好なる薄化粧料として紳士貴婦人間に高評あり
定價一瓶三十五錢全國到る所の賣藥小間物化粧品店にあり
東京市日本橋區本町二丁目
チエリーオイル本舗
發賣元　高橋初次郎
振替貯金口座　一〇九三二番
電話長本局　四一一三番

美顔料
CREAM

色黒き人に告ぐ
肌を艶白たらしめんと欲せば牛乳浴牛乳浴に勝るは
クリーム石鹸
定價　小形十五錢　大形廿五錢　詰合五十錢
香氣馥郁として香水匂袋の代用をなす
賣入元　東京神田久右衛門町　オーケー商會

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

良妻賢母たらむと欲する人は本誌を見よ

婦人世界

六月一日發行　三卷七號
一冊拾五錢　郵税一錢　五冊六拾五錢　郵税五厘　一ヶ年共郵税一圓九拾錢

◎男女結婚論（婦人一代の寶典は是也）　村井弦齋
◎齲齒は何人に多きか……榊博士
◎流産の豫防……梅溪
◎小說（お祖母さん）
◎面白き婦人の頓智談……
△本號には懸賞募集十數種あり……
◎外國人の見たる日本婦人
◎私の家庭にて實行せる室內掃除法　佐治實然
◎正直にして親切なる蜂須賀侯爵夫人　棚橋絢子
◎八十歳の長壽を保てる我が母の日常生活法……德富靜子（蘇峰氏夫人）
◎如何なる服装が婦人に似合ふか……正木直彥（美術學校長）
◎胎兒は如何に成育するか……加藤醫學博士
◎小兒のヂフテリア……白水
◎名歌評釋（螢の歌）……弦齋
◎夏向菓子製法　弦齋夫人
◎斯の如きは必ず失敗する料理法
◎媒妁口に誤られし實例……樫田
◎婦人ヒステリー症……學士
◎少女欄（時計ものがたり）

婦人世界臨時增刊　好評
食物かゞみ
一部拾五錢　郵税壹錢五厘　切手一割增
姙婦産婦の食物〰〰料理の心得（弦齋）病中病後肥瘦者の食物
諸國の名物料理百餘（懸賞當選發表）

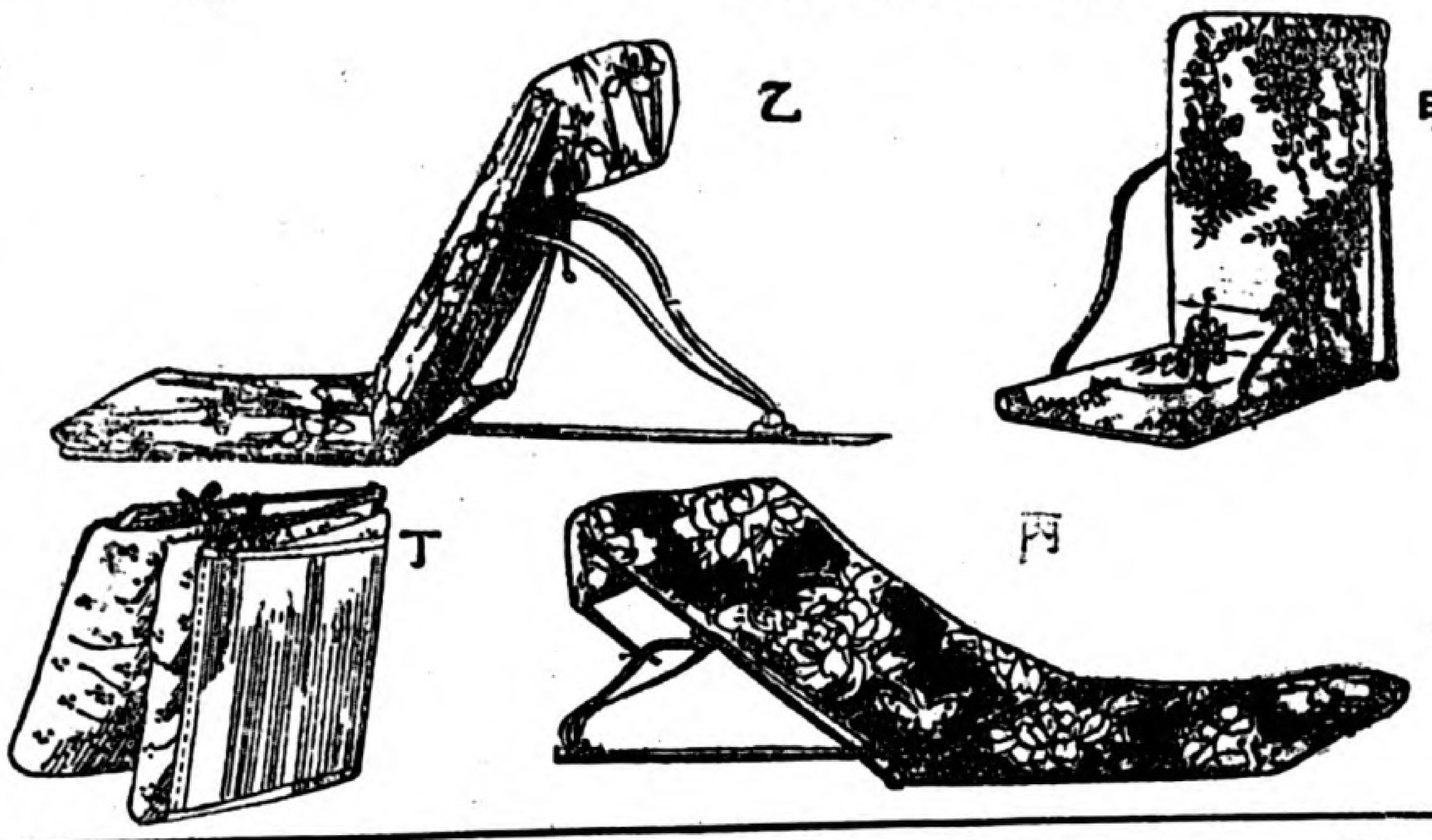
東京京橋南紺屋町　實業之日本社　（振替貯金三二六番）　全國賣捌書店

一森式座椅子（特許第九〇一〇號）

甲は通常狀態にある座椅子にして來客と應接談話するに適し其の人體自然の姿勢に相應する故快感云ふべからず。
乙は少しく之を傾斜したる有樣にして新聞書籍を見るに好適するのみならず平座して少しく疲勞を感じたる際之を用ふるによし。
丙は更に之を横臥せしめて恰も寢臺に椅るの狀態となり、夏日炎暑眠りを催す時、奪見しつゝ其の儘安眠して毫も取り亂したる風體を示すの患なし、
丁は使用終りて之れを疊みたる有樣にして容積の小なると重量の輕さとは旅行等に携帶するに至便にして且つ平素取扱ひ容易なり

定價
一更紗蒲團付　金六圓五拾錢　特別金七圓
一メリンス友禪又は繻子更紗蒲團付　金七圓五拾錢　特別金八圓

（荷造發送實費申受候）
右の外上等品は御好に應じ調製可仕候
東京芝區下高輪廿一東禪寺電車停留場前
製造發賣元　樂民堂
特約店　東京大阪　三越呉服店　電話新橋三〇六五番



◉色を白く　にきびしらず

獨逸國ドレスデン市ロールメヂシンス會社製品
皮膚特効美白新劑　チプリ化粧水

縮圖

○本品は西暦千九百六年の發明にして常用せば肌を軟密にし自然白色艶麗の美顔たらしむる事は第一の特色なり
○本品は皮膚に特効ある藥品を配劑しあるに依り「ニキビ」「ソバカス」「ハタケ」其他顔のアレ等に最も奇効あり
○本品の効能顯著なる事は試驗成績の結果に於て之を確むるを得遂に政府印紙を貼用するに至れり本邦に於て化粧水に印紙を貼用するは本品を以て嚆矢とす
○東京市内は勿論到る處の賣藥小間物化粧品店にあり品切れの節は送料八錢（六瓶迄）相添へ本舖へ御注文あれば直送す
正價小瓶三十グラム入金二十五錢

東京日本橋區本石町
日本一手販賣　松澤常吉

院長　醫學博士　榊順次郎（婦人科産科每日午前診察）
副　醫學士　久保德太郎（婦人科外科留學中）
副　醫學士　田代謹二（婦人科生殖器病外科一般及泌尿器病內科火木土午後診察）
婦人科産科　榊病院
●施診火木土曜午後一時至二時
麹町區三番町三三（電話番町三一九五）

東京市麹町區錢瓶町（常盤橋內）
日本興業銀行
電話本局（特）一、二八〇〇番　三、三〇〇〇番　四一〇一番　三七一〇番　一〇二番
資本金壹千七百五拾萬圓

營業科目
一擔保附社債に關する信託業務
一有價證券其他貴重品等の保護預
一有價證券の賣買元利金の支拂及び取立
一地方債、社債、株式等の發行募集事務
一各種の信託事務
一國債證券、地方債證券、社債券、株券の擔保貸付及手形の割引
一國債證券、地方債證券、社債券の募集又は引受
一法律規定に依り設定したる財團を抵當とする貸付
一定期預金、特別當座預金

ラクダ石鹸

本品は高貴なる麝香に愛すべき「スミレ」の香料を多量に含むが故壹度使用せば其香氣五日間馥郁としてかほりを失はざる一大特點を有す
定價（大形金廿錢　小形金拾錢）
東京日本橋區本石町三丁目芳香藥種問屋
本舖井上太兵衞

宮内省御用達
最モ醤油之元祖
上
開業貳百六拾四年
釀造元　下總銚子町　濱口合名會社
振替貯金口座五〇貳壹番

最上醤油
發賣元　日本橋區小網町三丁目廿七番地　濱口吉右衞門
品質ハ　印ト　少シモ　異リナシ
釀造元　千葉縣銚子町　濱口吉兵衞

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

新築店舗落成廣告

市區改正のため店舗新築中の處皆々様の御餘光に因り工事落成候に付き此際を期し營業振り一切を改め小間物小賣大商店として日常御使用の物より高貴の品に至る迄洽く取揃へ階上階下へ陳列致し總て新しき設備を以て六月一日より營業仕候間何卒賑々敷御來觀の榮を賜り度伏て奉願上候

階下一番賣場……御髪の油元結御化粧品化粧具つげ櫛道具かもじすげ形リボン花かんざし手がら類
階下二番賣場……東髪用飾り櫛實用櫛ピン一式びん櫛中差根がけるい御婦人用袋物帶どめブローチ
二階三番賣場……鼈甲お櫛笄簪弁に御婚禮用品蒔繪御櫛笄金銀かんざし珊瑚珠ヒスイ瑪根がけるい
二階四番賣場……貴金屬寶石指輪時計裝身具紳士用携帶品煙草具類金銀象牙彫刻美術工藝品各種

六月一日より七日まで一週間

新築落成紀念の爲御來客様の餘興として如左福引舉行仕候

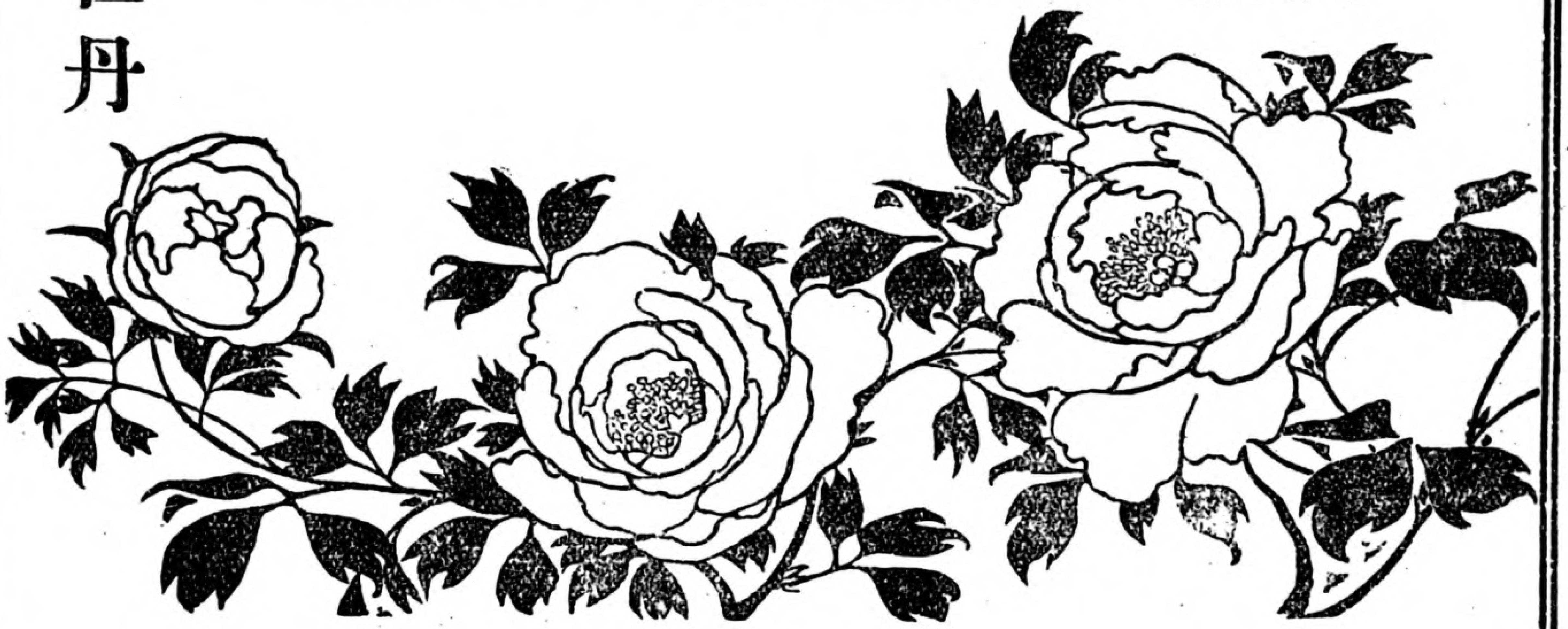
甲種　御買上高金五圓毎に甲種福引券一葉贈呈
○一等金五十圓　二等金十圓　三等金五圓
四等より九等まで各々意匠をこらせし紀念品各商品切手

乙種　御買上高金一圓毎に乙種福引券一葉贈呈
○一等金十圓　二等金五圓　三等金二圓
四等より九等まで各々意匠をこらせし紀念品各商品切手

○御買上金高一圓未滿は紀念品を贈呈仕候

東京京橋南傳馬町

大西白牡丹



ムスク香水

麝香獸印　大瓶壹圓　中瓶六十五錢　小瓶二十五錢

●芳香の永く保つ點にて高評也

（注意）近來類似品を販賣する者あれば御買求の節は右瓶の形狀及び二頭の麝香獸に御注意を乞ふ市内賣藥小間物化粧品店に於て販賣致し居り候

東京日本橋本石町四
松澤常吉

大日本文明協會會員募集

會長伯爵大隈重信

評議員井上、石川、和田垣、嘉納、高田、坪内、上田、浮田、松井、元良の各博士

入會金　特別會員四圓。普通會員三圓

會費　一ヶ月特別三圓。普通二圓。

本會の目的　宇大の新知識に親炙せしめん爲。歐米最近の名著を和譯して五十卷三萬餘頁の大著述を出版す。

規則郵券二錢封入申込あれ

京橋區南鍋町一ノ二　大日本文明協會事務所

婦人雑誌中清新にして有益なること天下無雙

女學世界

六月一日發行　第八號　一册正價廿錢　郵税二錢

◎上流家庭の危機……中村鈴子
●平塚明子と語る……翠子
●精神病の傾ある女……呉博士
●私の行つゝある育兒法……高島壽子
●某女の日本觀
●音樂と家庭
●山の都塵の都
●燕の研究
●交際の手加減
●天才と母

▼今の世に殘された舊式の奥様……蒲鞭
▼交際上から得る利益……山脇房子
▼生理上より見たる標準の娘……糸左近

●仲人の失敗談……拔衣紋
●我家の整理法……金森夫人
●高等下女教育……安部磯雄
◎御妻法……大町桂月

▼初對面錄……皐月女
▼三都の生活……觀風生

○前金郵税共四册八十三錢八册一圓六十一錢十六册三圓十二錢

少女世界

第七號　六月一日發行
正價拾錢　郵税一錢
●前金郵税共四册四十二錢八册八十三錢十六册一ヶ年一圓五十六錢

▽口繪△蓮舟（彩色石版）燕子花（彩色石版）
◎少女唱歌　燕子花
◎お伽小説　綠草紙
◎少女少訓
▼第三回懸賞當選の籤踏
▼黑白合姉妹
▼蝙蝠つばめ
▼日野阿新丸
▼考へ物解答
●三人令嬢女學校廻
●仙臺の愛讀者大會
●愛讀者の面影
◎夏手袋の編方……三木とみ子
◎少女園藝草いちご……難波五百麿
◎少年少女お伽まつり……記者
●海底の女王
●ネル嬢の話
●五ッの豆
●獨立の出來ぬ蟲
●東北巡回講話會

◀◀東京日本橋本町　博文館　郵便振替貯金口座四二〇〇番▶▶

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

和歌

佐々木信綱選評

天

鈴蟲や妹をねかす奥の間はお伽ばなしに更けにけるかな　三重 長井みどり

評。季にふさはぬ秋の歌なれど着想の可憐なるを以て天に選びつ。

地

ほろ〳〵と花ちる窓のたそかれを霞に消ゆる山寺のかね　能登 松本千代子

評。幽遠なる趣を採る

人

夕雨に落花亂るゝ野のこみち哀歌誦し行くうらぶれ姿　岩代 長谷川吉野子

評。遊子のおもひいかならむと思はれて

秀逸

拜いれぬ柚のなさけに此春もひとり靜けく花やさくらん　三河 山内經子

黒川や水に遊びし鳥去りて夕靜かに桐の花ちる　三重 長井みどり

蝶とみてか風のまに〳〵みだれとぶ花のふゞきをひなのおひゆく　岡山 横川明子

磯づたひ花藻あさるとあま少女うたふ小唄に春の潮わく　東京 吾妻初子

あはれにもふみにしられし道の邊のすみれの花の露にぬれたる　京都 渡邊豐子

櫻行きなの花去りぬやがてまた殘るすみれやあとをおふらん　京都 富田眞慈

さしなみのとなりにうたふもりうたにねむりもよふす春雨のまと　東京 長鹽錠子

深川の臟根めぐりて行く水の底くれなゐに岩つゝじ咲く　紀伊 茉女

けふの雨を蝶はいづこにやどるらん空しくくづる緋ぼたんの花　愛知 湯淺豐子

香に匂ふ花のありかを尋れ來てやどれる蝶の夢や何如なる　京都 今田安子

ゆく春に小櫛もとらず黒髪のみだれ亂るゝわが思ひかな　東京 西川縫子

春の朝山と山とにつゞきけり丘に小たかき吾家かすみて　下野 黒須喜久子

散る花の木蔭に立ちて旅僧の行く春おしむ里の夕暮　函館 安藤喜美子

水汲めばそらにうつりし山ぶきの影うつろひて花のこぼるゝ　廣島 金原直子

甲

鐘の音は野末に消えて淋しくも小雨ふる日よ海棠のちる　鹿兒島 藤野錠子

うつすべき景色あるらん畫匠が桃の花咲く門をくぐりぬ　鹿兒島 藤野錠子

ちら〳〵と花散る里の春の暮繪絹の如くかすみてくれぬ　東京 大塚しげ子

躑躅咲く野邊の細道たそがれて馬子の小唄の遠くなり行く　東京 小山季茂

のどけさはすみれ咲く野にまふてふの花よりいでゝ花にかへれる　東京 山本富子

夕日さす江の水赤く小波して名知らぬ鳥の鳴きてゆくかな　青森 竹林秋子

花は根にかへれとまたも春のあれと歸らぬ春の身ないかにせむ　三河 石川類子

思ふどちつゝじふみ分けわらびをりいとゞたのしき春の山ぶみ　長野 植原千代子

春といへどさびしかりけりおちかへりひばりなく野の夕暮のそら　京都 難波貞久

吹かをろうはらの花につどひくるこてふも針をよけてあそべり　伊勢 日野千鶴子

岩かげに袖も濡とやなかむらむましろに咲けるにつゝじの花　福岡 松野操

隴か屋の窓の火かげは見えながらくらき田のもに蛙なくなり　前橋 劍島すゑ子

櫻ちりつゝじ花さき夕日さしみところ多き春の山道　東京 林喜久子

岸のべの柳の糸のいとながうおぼろにかすむ春のよの月　岡山 山崎露子

池水にかけをうつして咲きにほふ色もゆかりのふちなみの花　靜岡 彦坂清子

散りのこる庭の櫻に鶯のくれ行く春をしのびれになく　山形 阿部さゐ子

冬枯れのしだれ柳に霜敷みし樣にも似たる白藤の花　青森 竹林秋子

野ぜりつむ里のをとめもかざしけりむらさきにほふ花のすみれを　能登 久保加壽

春雨の一夜を降りて畑つものみかはすほどにたけのひにけり　佐賀 小林義子

美しき四方の櫻も散り果てゝ訪ふ人もなき山の下庵　大分 桂木清閑女

春もやゝたけし山路のわらびをはなりつゝのころ花を見るかな　京都 花輪よしの

あすはまた雨とよぶなり小やまたの苗代水に蛙さわがし　三重 諸戸つれ子

櫧立のまつの梢ににほひけりよさのうみへの春のよの月　東京 飯塚きよ子

ふしのれのたかれしらみてあけにけり田子の浦わの春のあけぼの　東京 飯塚きよ子

花は咲いて花はちりけり思ふことなけれや春のくれてゆくらん　山口 末田貞節子

たけの子を束に積みしあき人の身にはいかなる貢荷おふらん　東京 清水まつ子

かやぶきの屋根はくろみてやれかきの中にも匂ふ山吹の花　岡山 西村長子

草しげき山田の畔にかしましく啼くや蛙の聲老いにけり　攝津 田中正子

山吹のうつろふ花にひれふりて小鮎とぶ見ゆ清き流れに　紀伊 中橋多麻子

山川の岸の櫻の花ちりて春はいづこに流れゆくらん　京都 太田久野子

暖かき風になびける若草に菫もまじる那須野原かな　下野 那須の花

山吹のこぼるゝ井手の川のせにちりうく花をふくむ若あゆ　京都 中川たか子

梅も散り櫻もあせて鶯の宿り定めぬ昨日今日かな　大分 桂木靜子

行く春や箏の手とめつみす卷きておぼろ月夜に花の雪ふむ　岡山 西村清子

新しき學びの庭にうなゐ子等唱歌謡すれば陽炎おどる　三重 西山數子

なやみなくこのもかのもになくかはづれさめて聞けば翠あれはなり　三重 西山ひさゑ

鶯のなくれもいまは葉さくらのかげにてきけばわびしかりけり　橫濱 鈴木まつ子

青柳のみだれてうつる川水のいろにも春の見ゆるうれしさ　豐橋 平松いと子

つれ〴〵にむかしの人を友としてふみ見てくらす春雨のまど　岡山 八木清子

やは風に二ひら三ひら散る花を蝶とや見けん小猫むつるゝ　群馬 木暮千代子

なの花にれむる小てふをそのまゝに家づとにせんすべもあらばや　東京 小宮とめ子

春ふかき岩木の峰はひさかたの空にまがふ色となりにき　青森 三上八重子

野に山に殘れる花も數なくてくれゆく春のをしまるゝかな　愛知 石川南江子

紫のすみれとなりてなつかしき君が詩集の中に入らばや　東京 久野

乙

かへりこし我を迎ふる人もなきかどに淋しき菫咲きけり　下野 那須の花

みどり子なはわする迄になりにけり雲雀鳴くなる野邊の若草　岡山 清水梅子

したひ來る蝶のなさけも深見草花の色香のたぐひなければ　群馬 樋渡八重子

花霞月はおぼろとなりにけり影さへ匂ふ春の夜の空　三重 莊司種子

野邊をゆくはださむからずあつからず花の木かげにしばしやすらふ　呉市 竹入男子

つかのまも小やみなく降る五月雨に軒の點滴聲の音と聞く　東京 足立きく子

ゆら〳〵と谷間にひとり藤の花けはしきまゝに咲きほこりけり　東京 伊矢野孝子

安藤和風氏著

新刊

俳諧研究

著者が多年の蘊蓄と研究とに成る俳諧の評論、史傳、考證、隨筆其他五十餘篇を網羅したる眞に明治俳壇の好著にしてまた初學者には無比の好指鍼なり……(紙數五百頁)

實價六十錢　郵稅八錢

東京日本橋通一ノ六　振替一七二　春陽堂　發行

商品切手調進仕候

本店 神田區小川町　電話本局四八九　振替貯金口座一五〇〇〇

支店 京橋區銀座　電話新橋八三三

季節向流行半襟各種

半ゑりは赤のまんに限る

本店 神田表神保町壱番　電話本局二八五三

出店 新橋博品館階上

流星御打粉

汗臭を消し寢しなに用ひ●のみに喰れず清涼と安眠を得●婦人湯上の薄化粧、小兒の腋下、股等に打掛け速に汗を乾し懷中して匂袋の代りに、顏を拭けば顏の油を取り早化粧となる、夏の必要品…

到る處の小間物藥店に販賣せらる

發賣 東京日本ばし坂本町 德田多助製

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

短文

編輯局同人選評

一等

ぶちこわし　東京　市村たか子

星戸樣では御夫婦は勿論召使までハイカラ揃ひ、お持ちものは云ふまでも無く室内裝飾などもなか〳〵振つてるが、それを打こわすのは火鉢の灰です。いつ上つても巻煙草の吸殻や、灰だまで一杯です。

評。帶や着物に流行風を吹かせて、天晴れ盛粧ながら、黄昏時の履物穿いて平然な輩。此の類殊に東京に多し。

二等

旅行の前夜　宮崎　竹林秋子

出立の準備はすつかり出來た。只心はいそ〳〵として落付かない。翌朝は早く起きねばならぬ。遲く起きると皆に置いてきぼりにされる。辨當も拵へなくてはならない。靴もよごれて居たつけ。りぼんも御同樣。考へると引きも切らず種々と不完全の點が發見される。忙しい事もないのに矢張り忙がしい。然し其間にも操られるやうな一種の望の光は輝いて居る。眠くなつたので床に入る。目的地の景色は目の前に浮ぶ。まだ忙しい心は去らない。

評。そんな忙しい間にも絶えず帶を擦せたり、髪を氣にしたり。姿見の前に立つことは怠らない。

三等

土曜日　東京　築地愛讀女

午前十一時頃外のどぶ板の上をがた〳〵と走り、格子をあけ、母樣只今と云つて袴を取り廊下に出て、桃から生れた桃太郎と唄ひ出す。

評。其兒の日記の一節なるべし。平凡なる奇き様なれど、何處となく氣がきゝたり。

佳作

おもふまゝ　京都　花輪余志野

御の室とともに花見し樂しさをけふは偲ぶ葉櫻のかげかくひとりごちつゝ逍遙する丸山公園の櫻樹のもと、花にうかれし春の夢、さめぬにはや若葉して、首夏にうつりし景色またおもしろく、藤の花池のあやめも床しき色に匂へるがいとなつかしうて、御の君よ、汝とよびたき心地ぞする。

評。優しき御心掛に候かな。文章また流暢なり。

花嫁　大分　桂木靜子

黄金彩る菜種畑の桃の木の根に、鍬と鎌とを前に置き二人並んでさも樂しそうに話して居る男女がある。男の方は年の頃廿四五とも見ゆる凛とした體格で、女は赤襷に白手拭を眉深に冠つた優姿、やおて極り惡さうに男の顏を見上て、手拭取つたのを見れば、是は又類には稀な美人併もまだ二九からぬ大一番の丸髷に赤い手柄の花嫁子。

評。君が當年の回想なるべし。欽羨。

嬉しさ　佐賀　小林龜子

四十度近くの大熱に犯されて苦しき夢路をたどり居しに、愛國婦人發行所より賞品送り來れりとの聲せしは夢なりしか現なりしかと、靜かに目開けば正しく見覺えある一包、枕邊に置かれてありき。嬉しさ忝けなさとみに頭もかろくなりし心地するは心がらにかと檢温器にて計れば三十七度、あまりに下り居し嬉しさ有がたさ。

評。益々勉め給ふべし。

雛くらべ　京都　湯淺豐子

今日で雛節句がしまいなので、十疊の間で鶴ちやんが泣いて居る、涙が赧い頬に流れて小さな稚子髷が搖れる其傍に鶴ちやんのお母さんと姉さんとがせつ〳〵と雛を片付ける。「また來年」と謂つて阿母さんは五人囃しを箱に入れた。—今夜はお鶴ちやんは眠られまい。

評。可憐なる寫實。

留守　下野　那須の花

しと〳〵と春雨のしめやかに降れば、刻一刻夜は闌ける。豆のやうな一穗の孤燈の下、愁然として弟の柩を守つて夜を明さうとする。ああ弟、薄命なる弟……。自分は呑み泣き合掌瞑目するに、またしても頬を傳ふるは冷たき涙なり。

評。骨肉を思ふ其情淺からず。令弟もまた泉下に姉なきを詫び給ふらむ。又曰。作者の健筆眞に敬歎に値す、益々努力して今後の發展を期せらるべし。

巣鵠　丹後　安久春子

餌をあさりに出た巣鵠、巣に歸つて一度坐つて見、卵の出たのがあるので、立つて啼てゴロ〳〵と中へ〳〵と寄せ、又坐つて見ては腹の外に出て居るのを口で寄せ、斯くすること四五回、終に十四五の卵を丸くならして其上に坐した。

評。面白き寫生文なり。今後材料を此方面に採りて應募せられたし。

紙の蝶　東京　横尾千賀子

切り刻み〳〵物の包紙は小さき双蝶を生みぬ。不覺いとしと見入る時しも風薫り吹きて、一つ我手を離るゝと思へば、ひら〳〵と飛行くに殘れるは雌か雄か、離のつらさを察して放ちやれば飛入りしか、もつれ〳〵て霞の中に消え入りぬ。

評。所謂天外より落ちたる奇想。筆致また之に伴ひて趣きあり。

正直　野島　伏島たき子

日頃まめ〳〵しく働きくるゝ下男、今宵一寸用足しにと出たまゝ、もう十時になるのに歸らない。どうした事かと思ひ乍ら、いつか眠てしまつたのであらう。板敷に人のけはひするのに驚き醒れば「どうも申譯御座いません、おそくなりまして此れからは注意しますから御許しを」といふのである。あゝだまつて己が部屋へ行つたとてそれですむものを、いつも乍ら正直な事よさてもいとしのわかものよ。

評。使ふものは常に使はれる者の覺悟で、人を使はねばならぬ。既幕の頭にも眞珠が宿る事を思つて、常にいたわつて遣し給へ。

南海より　甕島　藤野錠子

生等の乘艦松島は去月卅日午前四時頃火藥庫爆發遂に沈沒せり、數多の乘組員艦と運命を共にす、我竹馬の友夏目君もあはれ南海の底に沈みたり。併し生は幸ひ命を全うせり委細は後便より、恐。

母上樣　菊雄

評。材を採ること機敏なり。

夕暮　東京　足立きく子

水清き小川に架けてある中は朽ちた板橋を夕陽が力の無い光で横さまに照らし居る。前方の畑道から鋤をかついだ若人が村の方へ渡つて行つてしまうと、村の方から骨と皮ばかりの樣に、疲勞して息も絶え〳〵の老いたる非人が、力のない足をふみしめて竹杖にすがつて、其影を長く地に曳き乍ら來たが、橋を渡る頃には太陽は鎭守の森陰にかくれて何處ともなしに暮れの鐘の餘韻が物悲しげに幽かに傳つて來た。

評。本號文中有數の佳作。想筆併せ秀でたり。

お祭禮　東京　瀧澤てい子

ほか〳〵と馬鹿に熱い日だ、今日は春日神社のお祭で十歳ばかりの町の子供十數人、上り鉢卷にお尻を端折り足袋はだしして樽御輿を擔ぎ上げ、やつしよ〳〵勢よく砂ほこりを立てゝ行き過ぎる。今度は廿歳前後の若者連之も樽御輿で、やれ〳〵、向へ見に行つた中の一人、斥候になつて喚び乍ら戻つて來た、何だ滑稽な廣告やたい。

選外佳作

●蝶の舞、入木清子●鬼迫子、大橋まさ子●愛らしき庭、阿部さゐ子●幼兒、山崎靈子●稚兒、植原千代子●春の夕暮、中山由子●隣りの女中、久野●文ちやん横川明子●いさかい、斉斐初子●村芝居、小林帆子●日の出、佐藤幸子●夏の月、金原直子●月なき夜、しづか●駒雄ちやん、三上八重子●初夏、西村長子●電車、清水いま●留手紙、黒須壽久子●笑音、桂木清閑女

三十年間ビクトリヤ女皇陛下の御愛用を忝ふせり

歐米美人の肌は艶々として美つくしきこと羽二重の如し何故に歐米の婦人は斯く美つくしきや？

常にスミス洗粉を使用するが故なり

若し美人國の稱ある日本婦人中に未だスミス洗粉を使用せざる人ありとせば

其は美人國の恥辱なり

何故に美人國の恥辱なる乎

常にスミス洗粉を使用せざれば到底歐米美人の如き眞の美をなす能はざればなり

販賣店全國到る處の洋品店化粧品小間物賣藥店にあり

定價　大瓶金卅錢　小瓶金十八錢
袋入金十二錢　郵送料金十二錢
郵券注文一割増

製造元　英國倫敦　スミス化粧品會社
大英國帝室御用化粧商品

發賣元　東京銀座　佐々木商店
ローヤル化粧料發賣元
電話新橋四七一番
振貯三二二〇番

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

雜報

◎滋養葡萄酒　甲斐產葡萄酒の本家なる宮崎光太郎氏は今回掲題の如き滋養飲料を製造して下戸黨は勿論御婦人令孃の爲めに食卓上の好伴侶たらしめたり該液はアルコールを含有せず且つ防腐劑等の混合なき純粹葡萄液にして甘味芳香共に佳長井下山兩博士の指導になりたるもの、由今や宮内省御買上げの光榮を得て益々該品の價値を上げたるが夏の婦人飲料に適當品ならむか

◎大西白牡丹　今回改築したる店舖は敷地百零一坪の内建坪八十五坪にして本館の建坪は五十六坪二階造附屬家の建坪は廿九坪なり本館は間口六間奥行十間高さ軒先き迄五十三尺樣式はネーサンスに則りたる設計なり階下は悉く花人造石を敷詰め履もの、儘縱覽の便利を圖り屋上は着色彫刻の孔雀を飾り大きさ横九尺竪七尺其周圍と外部に取附たるイルミネーション裝置の電燈は其數五百個なり階上は一體に織物を敷詰め休憩室の天上及び三面の壁は千草の花密畵の絹地を張りたる屋内は光線の工合空氣の流通頗る宜しく三伏の暑さにも偏風器を用ゐるの要なし尚階上には四季ともに植物を蒐めて來客の眼を樂しましむ三階は工藝美術品の展覽場及び其一部を化粧室に充てたり此處は目下工事中尚電燈は各室の内外を通して九十個所此外に瓦斯燈二十個併用せるを以て夜間は殊に美觀を呈せり

◎近江屋　日本橋通一丁目四川甚五郎氏は從來日本橋と云へば近江店を思ふ程の有力者にして本濱かや、ぬいめなし蚊帳、疊表、花莚、座ぶとん等其商品の地味と商店の確實なるとは能く調和せり該店の繁榮策としては原料の仕入及び製造等充分注意し出來上り商品の低廉と品質の精良ならんことを勉め且つ取扱の親切等を以て永く顧客の信用を得るにありされば商業益々發展し從來の店舖にては手狹を感ずるに至れり依りて隣店の貳軒を買受け之を改築の計畫なれば改築の上は日本橋詰角十餘間間口の建物となり新架橋と共に美觀を添ふるなるべし

◎奧村五百子詳傳　前々號にも一寸申上げて置きましたが、今度本社から發賣す奧村刀自の傳記は、一方から見れば婦人の立志篇とも成功談とも申せますから、家庭には必ず備へて置かねばならぬ良書で御座います。又一方から申せば、奧村刀自の行動は常に愛國婦人會の創設經營活動に伴ふて居ますから、これを讀むと愛國婦人會の歴史及將來に關する方針なども、よく判りますから、苟しくも愛國婦人會の會員の方々には、缺くべからざる參考書であると存じます。斯一擧兩得の良書ですから、まだ御求めにならぬ方は至急御申込下さいませ。最早殘部も極く僅かで御座いますから、其御つもりで願ひます。定價は金五十錢郵税は金八錢併せて金五十八錢で御座います。綺麗な寫眞も澤山載つて居て、文章は判り易すくどなたにても讀めるやうに書いてあります。

新式自動　金C泉筆

本品は在來の粗製品と異り精巧完全優美高尚にして毫も舶來品に讓らず筆頭内小針の作用に依り一度「インキ」を注入すれば優に參萬五千字以上を書き得る故に學生の筆記銀行、會社、商店員は勿論旅行用に最も缺くべからざる逸品なり

●定價壹組五十錢送料十錢

東京神田區猿樂町貳丁目貳番地
和洋文房具商　大澤商店

舶來萬年筆　壹圓、壹圓五十錢、貳圓、三圓以上拾圓迄

外科
本鄉區元町一の十四(淨水地西南隅)
午後往診　夜間診療
醫學士　三原新太郎

小兒科專門
瘰癧症(腺病)小兒貧血症、結核性腹膜炎、腹水(脹滿、脾疳)小兒皮膚病、百日咳、
小兒ノ虚弱體質ハ前記ノ症ニ罹リ易ク動スレバ不治ニ陥ル余ハ獨逸留學中研究セシ體質強壯法ヲ以テ斯病ノ豫防及ヒ治療ヲ施ス
ドクトル　メヂチーネ　長井岩雄
東京日本橋區數寄屋町一、(電本百八十)

山城國宇治田原鄉之口

雲祥軒
村田喜久次郎

六月一日より
新柄浴衣地
大賣出し

餘興　最とも嶄新にして未だ世に熟知せられざるタイムスタンプを以て景品差上申候
擧行日　一日　五日　六日　七日　十三日　十四日　十五日
抽籤の結果は翌朝店前に張出し猶新聞紙上にて發表仕候

日本橋通旅籠町
大丸呉服店

宮内省御用達
大黑天印
甲斐產葡萄酒
甘味甲斐產葡萄酒
宮崎葡萄液
甲斐產ニハ純粹甘味ノ二種アリ純料ハ藥用ニ適シ甘味ハ婦人又ハ酒ヲ嗜マサル人ニ宜シ
宮崎葡萄液ハ葡萄ノ實ヲ食スルガ如ク酒精分ヲ含マズ美味ニシテ滋養ニ富メル好飲料
東京日本橋通旅籠町
甲斐產商店　宮崎光太郎
下口座一九三七番

社告

本誌掲載の廣告を見て、廣告主と取引應答せらるゝ際は、其旨先方へ御申添相成度候敬具

愛國婦人發行所廣告部

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

ヴワイオレット
ねり製
すみれ水製
すみれ 壽美禮 おしろい
皮膚艶藻剤
すみれ 壽美礼おしろい粉
東京東両國元町
製造本舗
壽美禮堂
販賣全國到る處の化粧品店に在り

良藥にして口に甘し
たんせきに
あさだあめ
淺田飴
すきはらにめし
たんせき ひきかぜ はいびやう よわき くだよし
定價 金五拾錢 金參拾錢 金貳拾錢 金拾錢
東京本店 堀内伊太郎 支店大坂
取次 全國藥店

ハンカチーフ用
フランス製
ケーテバ香水
定價 小瓶廿五錢 大瓶壹圓
輸入元 日本橋橘町 竹瀾商店

齋藤清太郎
治療 ドクトル
醫科
麴町有樂町帝國ホテル向（電本千五百十九）

内科 外科 産科
婦人科 耳鼻科 咽喉科
皮膚科 梅毒 泌尿器科
各專門分擔
東京病院
芝愛宕町
電話新橋（二六四）（二六二〇）
院長 醫學博士 男爵 高木兼寛

婦人病專門
芝明舟町十九虎門外宮樣前 電話新橋三三二四
院長 櫻井克己
櫻井醫院

產科婦人科專門
診察毎日午前 入院隨時
淺草區左衛門河岸
電話下谷一〇二八
岩田病院

神田區西今川町三番地（電話本局三〇一九）
内科病特に腦脊髓神經疾患
峰内科醫院
院長 ドクトル メヂチーネ 峰秀世

午前診察
午後往診
院長 醫學士 鳥山南壽次郎
鳥山内科院
京橋區鎗屋町十一番地
電話新橋千七百四十六番

院長診察、月、水、金、午前、松田醫學士診察火、土午前、窮者施診火、木午前入院診斷後隨時應需
松田、林、兩副長ハ目下當院ニ在勤、
東洋内科醫院
電話本局八八八（病院用）八九八（私宅用）
東京市神田區駿河臺鈴木町二番地（御茶水橋畔）

南湖院
院長 醫學士 高田耕安
神奈川相州高座郡茅ケ崎村濱（停車場所在）
河野、中村、兩副院長は目下當院に在勤
院長診察土曜日午後○同時窮者施診
副院長診察、月、火、水、木、金、土午前
○入院診斷後隨時應需○

小栗風葉君著
天才
△定價七拾五錢▽
△郵税八錢▽
これ風葉君が其一代の心血を傾注せる新刊の大傑作たり。陽春の天地に必讀の好小說!!
發兌元 東京京橋南鍋町一丁目 隆文館

草村北星著
相思怨 定價七十五錢 送料金八錢
露子夫人 定價七十五錢 送料金八錢
澄子 定價金六十錢 送料金八錢
百合子 定價七十五錢 送料金八錢

水原產科婦人科病院
○神田猿樂町十二番地
○電話本局千八百九番
○院内ニ產婆學校アリ

岩佐病院
日本橋區蠣殼町二丁目廿三番地
（電話浪花六九七番）
診察時間 自午前九時 至正十二時
内科婦人科 院主 岩佐純
内科 院長 ドクトル 岩佐新
（獨逸留學中）副院長 醫學士 高田壽
外科 醫學士 山村正雄
產科婦人科 醫學士 西村漸
腦病脊髓病 醫學博士 土田卯三郎

内科專門
杏雲堂醫院
神田區駿河臺 電本一六六九
院長 醫學博士 佐々木政吉

内科一般
東京神田美土代町三丁目十九番地
午前宅診 午後往診
板垣亭
電話本局貳千九百七十番

◎婦人科
◎小兒科專門
午前宅診 午後往診
東京市麴町區飯田町四丁目九
女醫 鷲山彌生

夏の櫛笄

黑地笹金銀芝山入價二十三圓

黑地深山菫芝山入價拾二圓半

東京尾張町　白牡丹本店

（電話新橋五一五番）　（振替口座四三九七番）

○院長 ドクトル 木村順吉
婦人科產科
京橋卅間堀一丁目角（電話新橋二二六七〇番）
木村病院

腦病脊髓病
●午前 自宅 神田多町壹ノ八
●午後 岩佐病院 日本橋區蠣殼町
神經衰弱、ヒステリー、中風癲癇
神經痛運動障害等
醫學博士 土田卯三郎

午前宅診午後往診 入院隨時
内山小兒科醫院
淺草區下平右衛門町十七番地
柳橋通り（電下一三二六五）

小兒病診療
宅診午前 往診午後
淺草區福井町貳番地
醫學士 内田愼太郎
●電話下谷七一八番

耳鼻咽喉病診療
入院應需
淺草區向柳原町一丁目二番地左衛門橋通り
中村醫院
電話下谷壹壹三〇番

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

美術と衣裳との接近

流行界に多大の勢力を認識されたる蘆手模様は今や當代大家の筆に依て數十種の美人畫と詩歌韻文とに應用され店内各所に掲出して御來遊を待ちつゝあり

六月一日より

夏季用薄地もの特に新製蘆手讃き應用の浴衣地大賣出し致し候

㊀歐米最新式の仕立洋服!! 盛んに紳士間に愛用さる!! 今や夏向もの澤山出來せり

㊁洋傘、帽子、其他和洋小間物類の整備!! 特に白木屋の靴は品質堅牢技術卓絶なるを以て需用熾ん也

寄喜禮、格安反物!! 選り取り御隨意

東京市　日本橋

白木屋吳服洋服店

六月一日ヨリ十日マデ及十三日廿日廿七日ノ土曜日十四日廿一日廿八日ノ日曜日

第貳回福引大賣出し仕候

御買上金壹圓以上五圓未滿乙種福引券五圓以上五圓毎ニ甲種福引券壹枚ヅヽ呈シ候

甲種景品　壹等吳服切手　金壹百圓壹本宛三本
　　　　　貳等同　　　　金五拾圓壹本宛五本

均一法元祖

松屋吳服店

日本橋區通四丁目（電車停留所前）

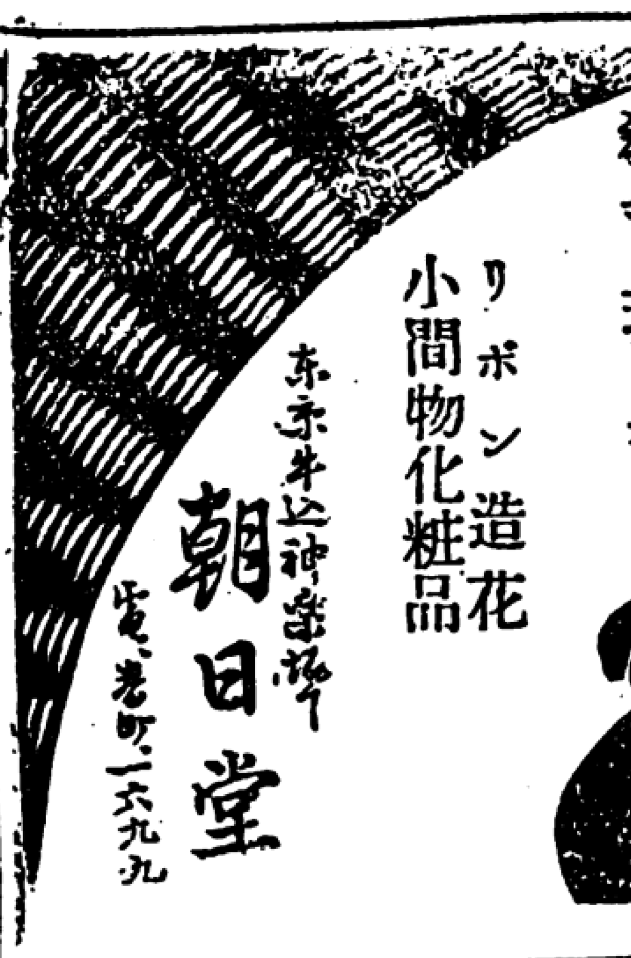
電話本局（六〇八）（七一六）

御婚禮の御仕度は……

電話浪花五百八十八番

日本橋……

玉川屋



御婦人用　夏ショール　小兒用帽子　夏手袋靴下　教育玩具

リボン造花　小間物化粧品

東京牛込神樂坂

朝日堂

電話番町一六九九

妾事薄毛にて種々藥を試しも効なく醫學博士今夫所三る者に困難し

人より奇藥を得薄毛も濃くなり生へざ迄毛生し嬉さの餘り困る方に分與せし百有餘の體狀を受け不思議のまゝ倘困難へ告ぐ三錢郵券添御照會あれ……

東京々橋越前堀一ノ四　河村愛子

平野のち子先生著　女子消息ゆきかひぶり　全壹冊　定價四拾錢　郵稅四錢

岡田起作先生書

岡田起作先生編書　女子消息のをなら　全壹冊　定價參拾錢　郵稅四錢

女子書翰文　全二冊　定價五拾錢　郵稅六錢

大井川帖　全壹冊　定價參拾錢　郵稅貳錢

烏丸帖　全貳冊　定價參拾八錢　郵稅四錢

發賣所　東京神田小川町拾三番　大野書店

それ以來は見上たもの

僅かな月賦金てミシンを買つて、無料て其使用法から裁ち方縫ひ方まて敎はつた結果、今迄市中て買つて、三十錢も出して居た小供の前掛を内て縫へば、原料たゞ七八錢て濟む、奥さんの心掛け一つてネルやセルの着物一着に二三圓も節儉が出來る、こふなつてこそ初めて賢母良妻といへるてはありませんか。

素人向。和服も縫へる

シンガーミシン

月賦販賣

無報酬出張教授　京濱市内

▲明細書　御申越次第無代送呈す

東京銀座　シンガーミシン會社

最上醬油

キハク印

名譽大賞牌受領　於聖路易博覽會

キハク印醬油は味がよくて調理にかなつて居ると云ふことは皆さん一般の評判てすどーか其あぢのよくてそして經濟てあると云ふことを御ためし願ます

釀造元　千葉縣野田町　茂木七郎右衛門

東京支店　日本橋區小網町三丁目　中野長兵衛　電話浪花五七七四

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

女優マダム川上貞奴 化粧問答

Question) 西洋忍化粧(ヤツコ)は何故婦人方より愛用さるゝのでしよう?

Answer) ヤツコは白粉と違ひ手數を掛け顔へ塗りつけるのでなく一寸顔を洗へは忽ち色白く艶を出し顔の小皺をのばし化粧をして化粧と見せず眞に天然の美の如く觀せるからであります!!!

Question) あらひ粉石鹼又は化粧水などで素顔を奇麗にしたのと同様であります

Answer) 大に趣が違ひ日常愛用すれば日本で俗に謂アクヌケノシタル顔色を顯す事は其特色とする所でありますから論より證據使用で御覽なさいよ!!!

Question) 近頃流行の西洋髪あらひ(マダム)は毛の爲めにはがいはありません?

Answer) マダムは内務省東京衛生試驗所に於て毛髪に對し無害の御試驗濟であります!!!

Question) 洗ひますのに何分間掛ります?

Answer) 微溫湯で僅か一分間に毛を傷めず赤くもせず奇麗に髪が洗へ升る最新發明の輕便髪あらひであります!!

Question) ヤツコマダム原品直輸入元幷に賣捌所は

Answer) 東京市外神田御成道田代町(電話下谷一三九九)(振替貯金東京一九二九四)田中丹治方にて賣捌は東京。横濱。名古屋。大阪。京都。神戸。市内各小間物店賣藥店其他全國到る所に有り若し無き時は隨意の分丈け郵券にて御申込あれば直ちに送附す

カメリヤ洗粉

◎容貌の美醜は化粧法の巧拙如何にあり艶麗花に優り純潔雪よりも猶清く高雅優秀なる美貌は最新の化粧法により配劑せられたる高等美身料カメリヤ洗粉の常用によりて顯わる本品の小量を微溫湯に溶解し洗面を試みよ花香芬々として心身爽快を覺ゆるのみならず顔面潔白となりて艶を生じ年若き花の顔となるべし一回の試用斯の如し是れが常用の成績に至りては既に愛用諸君の實驗し給ふ處にして敢て呶々を要せざるなり

東京 小林富次郎

本場の新色

あらゆる物品を最も格安の

正札附にて陳列販賣し市

内は無償で配達致します

[illegible]

[illegible]

東京新橋角

帝國博品館

日本一 大勸工場 東京名所

夏半ゑり新柄

其他見切物澤山取揃へ有之候

東京市日本橋通り三丁目

電話本局二千九百四十七番

ちゞれ赤毛の人に告

二瓶一組小卅錢中五拾錢大一圓前金無送料代金引換注文は廿二錢申受、取次人申込該液劑は獨逸醫學博士の發明に弊店多年の試驗劑を加味せし新藥にて僅か十分間に染上り黒き光澤を發し美麗なる烏羽の如し而して永久禿げる事なく毛を切らず皮膚に無害なるは弊店保證す明細書は郵券貳錢送れ

毛染所 東京京橋區本材木町三ノ四 岡田商店

洋傘 鞭杖

流行新形各種

仙女香

坂本商店

東京市京橋區南傳馬町三丁目

電話本局 一四四六

資本金壹千萬圓

釀造元 東京深川小名木川畔

日本醬油釀造株式會社

電話浪花(長)一三七三番 一五九五番

甘露醬油 ウメニホン

最上醬油 ヒシニホン

最上醬油 フジニホン

天下一品 マツニホン

特約販賣店

合資會社日本醬油東京販賣所

東京日本橋區北新堀町

(電話浪花長一四六番)

東京酒類問屋組合

其他

酒醬油仲買店及各小賣店に於て販賣致候

●最上醬油以下數種あり

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

愛國婦人廣告取扱
京橋區數寄屋橋外 弘報堂
神田三河町 博報堂
京橋區南紺屋町 一星社
京橋區南鍋町 秀逸社
日本橋區上槇町 萬年社
日本橋區箱崎町 春風舍
京橋區宗十郎町 正路喜舍
京橋區日吉町 帝國通信社
同區彌左衛門町 京華社支店
同區南鍋町 廣告社

洗用ワツセル
◎此ワツセルは油じみ油あか如何なる汚れでも揉ずに必ず落る石鹼曹達の如く布を損傷せず染色を褪さず費用と手數を省く經濟上有利なる日用品であります
◎用法は湯一升に二匁（小杯へ半分餘）の割合にて溶解し洗濯物を凡二時間浸し後湯又は水にて洗へば自然に脫ますシャツの如きは（拾貳匁入）一本にて貳百枚は必ず洗へます御婦人の髮は一匁五分を一升餘の湯に溶して拭してからじを洗ふ樣に揉ずに洗べし左れば玉子て洗た樣になります又食器臺所道具の解き掃除にも有効です
定價 拾貳匁入 金拾五錢 六匁入 金八錢 袋入二錢
東京市京橋區三十間堀三丁目 電話新橋一七一二
英國製ワツセル日本一手販賣元 御肌洗ひこ芳香ワツセル製造元 二友商會

東京市日本橋區通一丁目
合名會社 森村銀行 電話（特）本局六七三番 本局四九八番
定期預金 六ヶ月以上 年六分五厘
當座預金 百圓に付日歩 一錢
小口當座預金 同日歩 壹錢參厘

於勸業博覽會賜賞牌及褒狀
裁縫はさみ各種
（定價表は御報次第送呈す）
東京日本橋てりふり町 なごや
（電話浪花八五七番）（振替番號二九四七）

六月一日より
中形浴衣地新柄陳列會
尚豫て懸賞を以て募集致候中形圖案の内優等の分を浴衣地に染上げ陳列仕り候

流行の夏物及び雜貨類共一切取揃へ陳列致置候間御遊覧被成下候樣伏して奉願上候
三越呉服店

專賣特許
名和式蒸燒器 一名（テンピ）

▲定價（大）金貳圓七十錢（中）金貳圓二十錢（小）金壹圓七十錢 ◎販賣御望の方は御相談に應ず
製造發賣元 東京市日本橋區蠣殼町二ノ一五 電話浪花千百七十七番 名和商店
◎本器は圖の如く在來（テンピ）と異り頂上に火を要せず地輪に掛くれば火力は下部中央の穴より入り室の上部中央の穴より平均に火熱を周圍に普及し迅速に魚鳥獸肉類或は（パン）玉子等を加減よく蒸燒き得る輕便經濟の新器具なり手數と時間と燃料を節減し運搬輕便和洋割烹一切を迅速完全にする家庭臺所に必要の良器なり

最近發行 家庭必備二大名著
報知新聞記者天野誠齋君編
◎◎家庭談話 家庭日常の實驗
日常必要の問題につき名家の談話を集む重寶にして適切
悉く實驗より出づ學識あり才能ある婦人の言
新家庭の主婦 婦人の一代寶必讀
四拾錢（郵税六錢）
◎大版全一冊 石版木版多數
京都府師範學校教授木内菊次郎先生著
◎家庭美術 折紙と圖畫
折紙と圖畫の新書出づ 斬新珍奇數百種 兒童のため一本を備ふべし
◎郵税六錢 卅五錢
東京京橋南紺屋町 實業之日本社 實捌全國

元祖ねびへしらず
東京勸業博覽會賞牌受領
登錄商標

小兒用 直段
表中形裏ネル 一オ用二十錢 二オ用廿三錢 三四オ用廿六錢 五六オ用廿九錢 七八オ用廿三錢より
表メリンス裏同上 一オ用三十七錢 二オ用四十一錢 三四オ用四十六錢 五六オ用五十四錢 四十二錢迄各種
地方は代金引替小包送料五個迄十七錢五個以上は送費當店持海外は實費頂戴可仕候
東京日本橋區ふきや町（電浪二三四八）
製造卸小賣 佃屋商店

江戸織紐 帯締 羽織紐 其外組紐一式
電話浪花一一五六 振替貯金一一八五六

樂器 十字屋
東京銀座

最新流行
美術蒔繪
浪花一一四六

季節向流行新柄御半ゑり各種
ゑり善
東京日本橋區堺町通ふきや町
電話浪花千二百七十番

（定價金三錢五厘一ヶ月七錢郵税不要）發行兼印刷人 山澤俊夫　發行所 東京麴町區飯田町 愛國婦人發行所　印刷所 東京牛込區市ヶ谷加賀町 秀英舍工場

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

附録　愛國婦人會記事

愛國婦人會記事

□**參事會**　去月廿日午後一時參事會例會を開きたり。當日の出席者左の如し。

東郷鐵子、關邨子、濱尾作子、山脇房子、松平須磨子、鳩山春子、三輪田眞佐子、高木鏁子、仁杉歌子

□**會葬**　去月二十二日軍艦松島殉難者四十五名の葬儀を青山墓地に於て執行せられしに由り、本會を代表して左の職員等會葬せり。

板垣、黑木、丹羽、山地、片岡、尾崎八重子、阪井、關、仁尾、新山、柳谷、澁谷、の各評議員及東京支部幹事十一名。

□**第七回總會**　去月廿三日本會第七回總會を青山練兵場に於て開く。詳細は別項に掲ぐ。

□**主事會議**　去月廿七日午前九時より本部樓上に於て、大阪、鹿兒島、沖繩を除くの外各支部主事並に主事代理の事務員の協議會を開き午後四時閉會す。當日二條、清浦、岡部の各顧問臨席し。座長は佐藤事務長とす。

□**慰勞會**　前項主事會議閉會後各支部事務員及本部事務員並に總會に應援せられし東京市各區委員及本誌發行所員等の爲め、偕行社に於て慰勞の爲晩餐會を開く。席上大島光利（伯爵）氏の餘興講談あり午後七時半散會せり。

□**弔問及會葬**　臺灣支部顧問祝辰巳氏卒去に就き、去月廿七日本會を代表して、古市評議員同邸を弔問、同廿八日芝增上寺に於て執行の葬儀へ、丹羽、熊谷兩評議員會葬せり。

□**臨時評議員會**　今五日新選評議員會を開き理事の推薦を爲す。

□**評議員會**　本月の評議員會は來廿四日（第四水曜日）に開催す。

□**總裁殿下**　には六月五日開催の山口支部總會へ臺臨の爲、去二日御出發あらせられしが隨行者は岩倉會長、千家、山脇兩評議員及び本部事務員にして御道程は次の如し。

六月二日　午前八時新橋御發車
　　　　　午後九時二十分神戸御着
同　三日　午前七時廿五分神戸御發車
　　　　　午後二時五十八分廣島御着
同　四日　午前十時十分廣島御發車
　　　　　午後三時五十四分小郡御着
　　　　　午後四時卅分小郡御發車（此間人力車）
　　　　　午後五時卅分山口御着
同　五日　山口御滯在（支部總會御臺臨）
同　六日　同　　上
同　七日　午前九時山口御發車
　　　　　午前十時卅分小郡御着
　　　　　午前十一時九分小郡御發車
　　　　　午後七時十二分岡山御着
同　八日　午前九時四十五分岡山御發車
　　　　　午後四時十九分大阪御着
同　九日　午前八時卅分大阪御發車
　　　　　午後九時新橋御着。

宮城支部遊説記

野中彌知子

第三回報告

廿日　午前六時栗原郡役肯記迎の爲菊地氏別莊に來着同八時比前日來桶谷町より當日尻町祭典に付出張中なる山中警察署長來訪されたり。午前十一時四十分幹事諸氏と共に高清水町小學校に入る、午後二時開會、當日は朝來より雨天なるを以て聽衆二百五十餘名津谷川町長開會の辭を述べて講話五時閉會、後大風雨を侵して腕車にて築館町に向ふ八時着。

廿一日　午后二時郡役所樓上にて開會、前日來の大雨は止みしも瓦石を飛す暴風にて會場の動搖烈し熱心なる會員吹荒ぶ風を物ともせず相會する者三百餘名、辰野顧問出張中なるを以て莊司郡書記開會の辭を述べ了て講話五時閉會。

四月一日　零時卅分石橋副長以下諸氏と共に盲人遺族千葉實作を自宅に慰問し金壹圓を贈與す、夫より直に腕車を驅り志皮姫村に向ふ、一時廿分着會場なる小學校に入る、二時卅分開會聽衆四百有餘名克く趣旨を靜聽せり五時四十分閉會。

二日　午前八時卅分石橋副長石森主事は歸仙、同九時龜井支部長以下諸氏同行岩が崎町に向ふ十一時卅分着午後二時圓鏡寺にて開會聽衆三百五十余名、莊司郡書記開會の辭を述べ龜井支部長挨拶あり竹内氏會の希望を述べ了て講話五時閉會。

三日　午前九時龜井支部長以下同行金成町に向ふ、午後一時小學校に於て開會聽衆五百有餘名、辰野顧問開會の辭を述べ龜井支部長の挨拶あり竹内氏會の希望を述べ了て講話克く趣旨を靜聽せり五時廿分閉會。

四日　午前九時龜井支部長以下同行腕車を驅り若柳町に向ふ十時廿分着、午後二時劇場に於て開會聽衆五百餘名、莊司郡書記開會の辭を述べ龜井支部長の挨拶あり竹内氏會の希望を述べ了て講話九時閉會。

五日　午前九時登米郡牛田幹事部長同顧問濟井警察署長迎の爲め若柳町旅館に來着一同紀念の撮影、辰野幹事部長以下十餘名石越停車上迄見送られ是にて別を告げ夫より、一行は登米郡石越村に向ふ、午後二時小學校に於て開會聽衆六百有餘名牛田顧問開會の辭を述べ了て講話、場内の靜肅なることは今回遊説中前後稀れに見る處五時閉會。式後一行雨を侵し佐沼町に向ふ八時着。

六日　午後二時卅分郡役所内に於て開會聽衆七百餘名牛田顧問開會の辭を述べ龜井支部長挨拶あり竹内氏會の希望を述べ了て講話、場内靜肅なりしは前後稀なりし五時卅分閉會。

七日　午前九時一同米谷町に向ふ十一時十五分着、午後二時卅分東洋寺に於て開會聽衆五百餘名、場内人無きが如き靜肅、牛田顧問開會の辭を述べ龜井支部長の挨拶あり竹内氏會の希望を述べ了て講話五時四十分閉會。當登米郡は石越佐沼米谷三ヶ所共何れも男女折半の大人のみの聽衆なりき。

第四回報告

八日　午前六時龜井支部長以下同行桃生郡中津山に向ふ、午後二時小學校に於て開會聽衆三百餘名、熊井顧問開會の辭を述べ了て講話五時卅分閉會。

九日　午前九時出發、龜井支部長以下同行飯野川町に向ふ同十一時着、午後三時小學校に於て開會聽衆者四百餘名熊井顧問開會の辭を述べ龜井支部長の挨拶あり竹内氏會の希望を述べ了て講話場内靜肅なりき五時卅分閉會。

十日　午前八時出發、龜井支部長竹内氏熊井顧問以下同行鷺來村に向ふ同十一時十五分着、午後二時卅分天理教會場に於て開會聽衆三百餘名、熊井顧問開會の辭を述べ龜井支部長の挨拶あり竹内氏會の希望を述べ了て講話五時卅分。當小野村は戸數百戸なるが齋藤幹事非常に熱心なる勤誘により講話會なき以前より全村百戸より七十戸入會せしめ平和の今日に至るも毫も挽ますを金五錢を一株となし會員中に醵金方を設け本部又は支部總會の際抽籤の上會員惣代として二名を出席せしめる規定なるが來秋當支部總會に付抽籤せしに遺族二名に當れりと又年に一回一村丈の總會を開き齋藤幹事委員部長となり幹事部長支部員を招待し講話會を催せり眞に本會の模範村なり齋藤櫻井氏は親戚の間柄にて兩幹事とも非常に本會に熱心なり。

十一日　午前八時松島驛に向ふ十一時廿七分歸仙。

十二日　午前十時廿五分仙臺發列車にて龜井支部長以下同行大河原町に於て開かるゝ總會に向ふ十一時十五分着、午後一時開會來衆者六百餘名。

十三日　道中

十四日　午前八時出發龜井部長以下同行鳴子に向ふ午後二時卅分小學校に於て開會聽衆四百餘名成毛顧問開會の辭を述べ龜井支部長挨拶あり竹内氏會の希望を述べ了て講話九時卅分閉會、後遺族廢兵を旅館に集め龜井支部長懇篤に慰問され金子及菓子を贈與されたり、就中長男には病死され次男には戰死され末亡人は里方に歸し孫二人を養育せる家計貧困本年六十三歲にして佐藤とくなる老母あり金五十錢を贈與す當日即時廿二名の申込ありたり。

十五日　午前八時一行は腕車を驅りて岩出山町に引返せり途中池月村に下車成毛顧問の案内にて荒尾川の邊りなる名馬池月の墓所を一覽したり聞く所に因れば當地は往昔より代々名馬の出所にて、陛下御乘用の金華山も當溫泉の出なりと、同十時着、午後二時小學校に於て開會聽衆四百餘名成毛顧問開會の辭を述べ龜井支部長の挨拶あり竹内氏會の希望を述べ了て講話五時閉會、後遺族に對し支部長より懇篤なる慰問をなし菓子を贈與されたり、當郡は縣下にても人口僅少なれども顧問並に町長非常に熱心にて即時百名の申込者ありたり。

▽岩手支部近況△

▽**癈兵院へ寄附**　岩手支部に於ては過日日本育兒院の爲めに當市藤澤座に於て慈善演藝會を開催し其所得金を擧げて同院に寄贈せしが頃日同院より左の如き感謝狀を送り來れりと

感　謝　狀

一金四百十圓十四錢也　但盛岡慈善演藝會收入金

右無告の孤貧兒救養事業に御贊同之上前記の金額本院經常費内へ御寄附被成下御厚意之段難有正に感謝受領仕候　敬具

明治四十一年五月一日
岐阜縣岐阜市　日本育兒院

愛國婦人會岩手支部長笠井芳子殿

福島總會

去月十九日午後二時福島市公會堂敷地に於て總裁宮殿下御臺臨の下に第二回總會を開けり。當日殿下より賜はりし御諭旨左の如し。

福島支部愛國婦人會諸氏が君國の爲めに自ら致したる軍人の遺族及廢兵を援護せむ爲め夙に會務の發展に努め慈善の美果を收めんとするは深く喜ぶ所なり今や當支部の狀況を按ずるに會員は日々に加はり會務月に整ひ其成績見るべきもの尠しとせず然れども令旨を擴充し遺憾なからしめんとせば其業務容易ならざるものあり諸氏幸に心を同うし力を戮せ益々奮て本會の目的を完成せんことを期せよ

當日は岩倉會長及び藤井評議員出張左の諸氏に對し總裁宮殿下より有功章を親受せられたり。

二等有功章伊達郡桑折町角田キン子、三等有功章同大森常助、同安積郡桑野村松尾カヲル子、同耶麻郡喜多方町則武トキ子、同同相馬サマ子、同同原八重子、同河沼坂下町和田春江子、同岩瀨郡須賀川町鹽田コウ子、同西白河郡白河町石岡キン子、同安積郡山町平野マサ子、同同湯澤ハル子、同双葉郡富岡町遠藤ワカ子尚又廢兵總代伊藤定七遺族總代岡崎中尉母スゲ子に對し特別賜金御授與ありき。

當日支部長の答辭、會長及會員總代の祝辭は餘白なければ除く。

廣告

『愛國婦人』擴張の儀兼ねて當雜誌東京市内配達擔當者に命じ置候處當方周到なる注意にも關らず其方法機宜を失し佐藤少將の官名を用ゆる等穩當を缺き候爲め既に斷然擴張勸誘の中止を命じ置き候然るに今に於ても往々未だ擴張の爲めと稱して諸處に奔走致すもの有之候にや聞き及び居り候も右は既に當方には何等の關係もこれなきことに有之候間念の爲め茲に廣告候也

愛國婦人發行所

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

第七回總會の狀況

梅雨曇りの空雨ともならず、葉末を渡る初夏の風快よき五月廿三日、わが愛國婦人會第七回總會は青山練兵場に於て擧行せられたり。朝來風烈しかりしかども會場さして集る會員引も切らず、東京支部を始め各支部の休憩所は早くも會員を以て埋められ、廢兵及遺族の休憩所には義手義足の壯丁の、かよわき人に扶けられて來會せるゝの並に此處の草叢彼處の樹蔭に立ち憩へる老翁等の殊に同情を惹くものあり。來賓を始め此盛典に參列せんと集ふもの實に貳萬有餘人。其重なる來賓の氏名左の如し。

(婦人來賓)　河島、岡部、大山、清棲、島田、南部、有吉、森、川路、李家、武田、浦、龜井、平岡、笠井、西澤、下岡、村上等の各支部長、其他各副支部長、各幹事部長等數十名。

(男子來賓)　伊東元帥、原內相、清浦樞府、松平子爵、石本陸軍次官、井口少將、門司少將、堀內大佐、小笠原海軍中佐、川崎廢兵院長、その他陸軍大學教官數十名、渡邊子爵、鳥居子爵、各區長、郡長及び新聞記者數十名。

式場は杉の綠葉を以て飾り、金屛風及紅白段だら緞子の幕を打廻らせる中央に玉座を設け、其左右を供奉女官、總裁殿下並に各名譽會員殿下の御席及會長席親任官顧問席となし、階下の左側は男子來賓、佩有功章男子、各支部男子職員、新聞記者席、右側は理事、監事、評議員、各支部長、佩有功章婦人、各支部幹事席、正面は有功章拜授者、特別會員、通常會員、廢兵遺族席にしつらはれたり。

皇后陛下着御

午前十一時十分陸軍大學校の方に、國旗搖ると見るや翩然として打上る煙火と、近衛の軍樂隊が奏する曉々たる國歌の中に、皇后陛下には高倉典侍御陪乘香川皇后宮大夫外女官を從へさせられ、陸軍大學校なる御便殿に着御、御先着の各宮妃殿下の奉迎を受けさせられ、暫時御休憩の間に、伊東元帥、陸軍大臣、內務大臣、清浦樞府、岩倉會長、近衛、一條、岡部理事上京の各支部長に各個拜謁仰付らる。

開會

午前十一時四十分玉車會場に臨むや、御車寄せには總裁殿下、各宮妃殿下、會長、各理事御出迎申上ぐ。之より前第一鈴にて來會者一同式場に參列、第二鈴につれて國歌吹奏中、皇后陛下には岩倉會長の御先導にて式場に成らせられ次て總裁殿下各名譽會員殿下御同列にて台臨あらせらる。やがて岩倉會長の開會の辭了るや陛下には淑やかに御起立御聲朗らかに左の**令旨**を賜ふ。

本日愛國婦人會第七回會員總會に臨み各員を見るを喜ぶ將來益々本會の盛ならんことを望む

此時總裁殿下には御前近く進み、恭しく令旨を拜受し數步御退左の**奉答文**を御朗讀あらせらる

茲に愛國婦人會第七回總會を開くに方り畏くも皇后陛下の親臨を仰ぎ優渥なる令旨を辱し何の光榮か之に加へん伏て惟るに陛下夙に本會事業に庇護をたまはり洵に感激の至りに堪へず智惠子全國會員と共に益々努力して救護事業の完成に努め以て至仁至慈なる陛下の懿旨に副ひ奉らんことを期す謹みて奉答す

明治四十一年五月廿三日

愛國婦人會總裁載仁親王妃智惠子

續いて有功章受領者總代理事一條公爵夫人に對し、總裁殿下より有功章御親授あり右終るや十一時五十分陛下には香川皇后宮大夫の奏請に依り、徐ろに玉座を離れ給ひ奏樂中に諸員の奉送を受けさせられつゝ還御遊されたり。陛下奉送後再び御臨場の總裁殿下並に各宮妃殿下には、式場の中央に進ませられ、有功章拜受者にそれ〴〵御親授、了つて廢兵院在院者、東京支部內の廢兵及戰死者遺族に對し、特別賜金の御沙汰あり。各總代は左の如く拜受す。

一金六十二圓　廢兵院收容廢兵三十一人
　右代表者　橡原廣綱
一金二千圓　東京支部內廢兵及戰死者
　遺族二千人へ　右廢兵總代　高柳直兵衛
　遺族總代　直納みな子

右にて式は全く終り、各宮妃殿下には一旦大學校御休憩室に入らせらる。當日の有功章拜授者左の如し。

▽一等有功章受領者

功績	岩手支部	笠井芳子
仝	北海道支部	佐藤陽子
仝	東京支部	金田あい子
仝	仝	鷲尾幸子
仝	仝	武藤悅子
仝	神奈川支部	白根なみ子
仝	仝	白根鼎三
仝	東京支部	宇津木廣子
仝	仝	飯塚里子
仝	仝	横瀨武良子

▽二等有功章受領者

功績	岩手支部	帆足梅野子
仝	和歌山支部	加藤幸子
仝	神奈川支部	新山ッ子
仝	仝	新小政浦
仝	千葉支部	大賀美子
仝	靜岡支部	稲見みつ子
仝	仝	本田きみ子
仝	和歌山支部	佐々木八千代子
仝	廣島支部	落マす子
金百五十圓寄附	京都支部	上田きぬ子

▽三等有功章受領者

功績	神奈川支部	宗直彦
仝	千葉支部	岡巖
仝	千葉支部	大賀雄次郎
仝	茨城支部	山田いの子
仝	北海道支部	武川ろく
仝	栃木支部	増田マツ子
仝	靜岡支部	大井兼子
仝	神奈川支部	江藤定百
金五十圓寄附	埼玉支部	金子けい
仝	仝	市川きく
仝	仝	大熊ひで
仝	仝	木村せい
仝	仝	木村小糸
仝	群馬支部	橋本節子
仝	福井支部	土屋ふさ子

以上三十五名

茶話會

一旦御休憩室に入らせられし各名譽會員殿下には、御少憩の後、茶話會に御臨場相成たり。會場は練兵場の東南隅に天幕を張り天幕の一隅一段高き處に御席を設け、本會各役員及來賓の懇親を旨として茶話會を開きたるが、會するもの千貳百餘人、紀念としては硯箱及扇子を贈付したり。硯筥の蓋裏には會長岩倉公爵夫人の和歌

　とこしへに榮えゆくらむ異心の
　　よりて集るこれのまとひは

を認められたり。當日評議員幹事諸氏の非常なる盡力に依り總會　終始完なるを得たりしは最も感謝する處なりとす。

授産場製作品の御買上

陸軍大學校玉座に陳列せし各支部遺族并廢兵授産場の製作品中特に御奬勵の御思召を以て　皇后陛下御買上の榮を得たるもの左の如し。

東京支部　小兒胸掛一枚、前掛一枚、絹天足袋一足。
京都支部　小兒夏帽子一個、
大阪支部　「ヤマト」帽子一個、
三重支部　リンネル小机掛三枚、ローンハンカチーフ一打
秋田支部　木通蔓細工輪透祭形手提一個
仝　釣花籠、
福島支部　手捫萬古燒急須一個
石川支部　ドロンオーク絹ハンカチーフ半打、同　肌敷一枚、
富山支部　羽二重地刺繡ハンカチーフ二枚、同　延掛一枚、モスリン小兒洋服一着
山口支部　タオル一打

同日別室に陳列せし製作品の內御奬勵の爲め總裁殿下御買上品左の如し

東京支部　襦袢袴下一組、キャラコ足袋一足
京都支部　學生帽(エム形)一個
大阪支部　綿ネル襦袢袴下一組
三重支部　小机掛二枚
秋田支部　木通蔓細工椅子一脚
福島支部　手捫萬古燒急須一個、同小茶碗一個
石川支部　机掛二枚
富山支部　ハンカチーフ二枚
山口支部　タオル一打

東本願寺に於る講話會

後樂園の縱覽

廿四日午後二時淺草東本願寺に於て、地方會員の爲に講話會を開く、來會者約五百名、小笠原顧問開會の辭を述べ、伊東元帥并に南條博士の講話あり終て餘興に移り猫八の物眞似、小正一の西洋奇術、鶴枝の百面相、桂小南の碁盤踊、小正一の皿廻し及手品あり一同歡を盡して散會せしは午後五時なりき。當日取締及接待として出張の職員は岩倉會長初め阿部、有地、佐藤猶子、柳谷、仁杉、長岡、能谷、藤井、澁谷の各評議員及東京支部幹事十一名等なりき。

同日及廿五日東京支部會員の爲に、後樂園の縱覽を許されたるが、廿四日には二百七十八名、廿五日には參百九名の縱覽者ありたり。本部よりは廿四日伊達、關、江木の三評議員及幹事諸氏、二十五日長谷川、宇佐川、三井、菊池、渡邊の五評議員及幹事諸氏盡力せり。

濱離宮及閑院宮御邸の拜觀

廿五日午前九時より本會職員并に佩有功章者の爲、特に濱離宮の拜觀を許されたるが、午後四時迄に總數六百〇九名なりき。當日出張の取締及接待職員は、佐竹、板垣、岡部、片岡、佐藤靜子、丹羽、豐島、新山、古市の各評議員及び幹事諸氏なりき。尙當日男子にして會員章を佩用拜觀を乞ひしものありしも懇切に旨を說き退場せしめたり。此の日又一般會員には閑院宮殿下の御邸の庭園を拜觀せしめられたるが、參觀者約七千名に達したり、取締及接待のため本部より出張の職員は東郷、寺內、松平須磨子、尾崎八重子、千家、鳩山、高木各評議員幹事諸氏等凡て十一名なりしも拜觀者存外多數手廻り兼ねし爲め殿下の御思召により特に侍女ゝ御貸與援助せしめられたり。尙又當日拜觀者一同に對しては茶菓を下し賜ひ、出張の職員一同に對しては午餐を饗せられぬ。

慰勞宴

廿五日午後五時より偕行社に於て　總裁殿下并名譽會員東伏見宮梨本宮兩妃殿下臺臨の上、總會參列の各支部長及副長佩特別徽章者に對し、慰勞として御陪食を賜りたり。岩倉會長理事評議員廿餘名を併せて參會者九十餘名なりき。當日は名古屋支部幹事部長餘興として筑前琵琶を彈ぜられたり。

東宮御所及振天府の拜觀

廿六日午前九時より新に御造營の東宮御所を幹事部長以上各支部より二名を限り外に各支部主事并谷理事、佐竹、阿部其他の評議員廿五名等總計百十餘名拜觀せり、猶午後一時よりは、宮中振天府の拜觀を幹事部長以上、職員一同に許されたり。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

明治四十一年六月五日（毎月二回五日廿日）發行
明治三十五年三月二十七日第三種郵便物認可

愛國婦人第百五十四號附錄

愛國婦人會各支部職員小肖

佩二等有功章廣島支部幹事

佐々木利惠子

佩一等有功章廣島支部長

山田竹子

佩二等有功章青森支部幹事

田中いよ子

佩三等有功章青森支部幹事

松森さだ子

佩二等有功章宮城支部長

龜井眞洲

佩二等有功章青森支部幹事

船越せい子

佩二等有功章青森支部幹事

森田たき

佩二等有功章青森支部幹事

小林こと子

佩三等有功章青森支部幹事

天城トシ子

佩二等有功章廣島支部幹事

太田園子

發行兼印刷人 山澤俊夫　編輯人 永持德一　發行所 愛國婦人會内愛國婦人發行所
印刷所 東京市牛込區市ヶ谷加賀町一丁目十二番地 株式會社秀英舍第一工場

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN